取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER PRADO

4 運転

5 室内装備・機能

6 お手入れのしかた

7 万一の場合には

8 車両情報

さくいん

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・GPS ボイスナビゲーション
・バックガイドモニター
・ETC システム
・オーディオ＆ビジュアル

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。
・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。
・エンジンの回転数
・車速
・ブレーキペダルの操作状況
・アクセルペダルの操作状況
・トランスミッションのシフトポジション
・運転者のシートベルト装着の有無
・エアバッグ作動に関する情報
・エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの情報開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
・お車の使用者の同意がある場合
・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

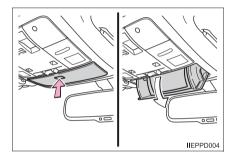
本書の見方

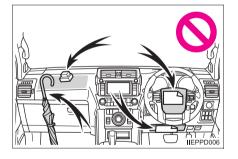
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

INPGS035

■ 取り付け位置から探す

INPGS037

■ 症状や音から探す

INPGS038

■ タイトルから探す

INPGS039

イラスト目次

■ 外観

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 295, ワット数：P. 372）

★：仕様により異なる装備やオプション装備
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ インストルメントパネル

★：仕様により異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

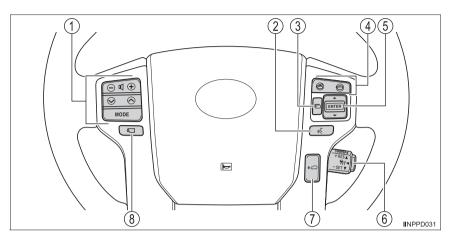
① 車高切りかえスイッチ★※

② 車高制御 OFF スイッチ★※

③ VSC OFF スイッチ . . . . .P. 219

④ AVS スイッチ★※

⑤ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ★. . . . . .P. 224

★：仕様により異なる装備やオプション装備
※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

① オーディオ操作スイッチ★※ 1

② トークスイッチ★※ 1

③ メニュースイッチ . . . . P. 73

④ 電話スイッチ★※ 1

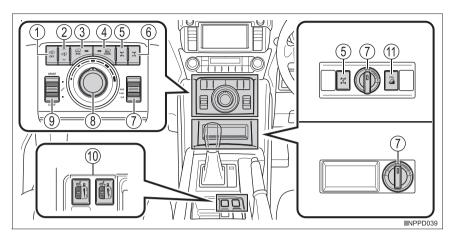
⑤ “ENTER”スイッチ . . . . P. 73

⑥ クルーズコントロールスイッチ

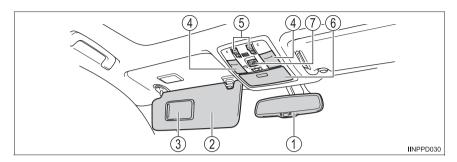
クルーズコントロール★ . . . . P. 192

レーダークルーズコントロール★. . . . . P. 196

⑦ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . P. 198

⑧ カメラスイッチ★※ 2

①車高制御 OFF スイッチ★※ 2
②車高切りかえスイッチ★※ 2
③マルチテレインセレクト ON ／ OFF スイッチ★※ 2
④クロールコントロール ON ／ OFF スイッチ★※ 2
⑤センターデフロックスイッチ★※ 2
⑥リヤデフロックスイッチ★※ 2
⑦トランスファースイッチ※ 2
⑧マルチテレインセレクトモードセレクトダイヤル★※ 2
クロールコントロール速度切り替えダイヤル★※ 2
⑨AVS スイッチ★※ 2
⑩シートヒータースイッチ★. . . . . .P. 241
⑪DAC スイッチ★※ 2

★：仕様により異なる装備やオプション装備
※ 1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※ 2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ 室内

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 58)

※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

運転する前に

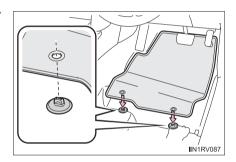
点検整備

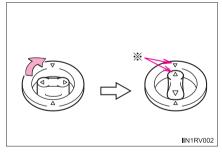
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になるほか、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 112）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 112）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 129）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 135, 137）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

ITN13M026

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

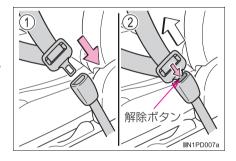
● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

着け方・はずし方

IIN1PD007a

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

シートベルトの高さ調節（フロント席・セカンドシート外側席）

IIN1PD009

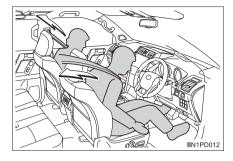
① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）★

衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取ります。（→ P. 223）

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

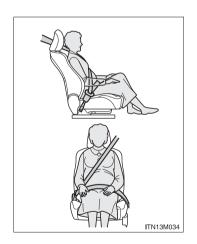
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート（7 人乗り車のみ）のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→ P. 118）にかかっていないことを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ITN13M034

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

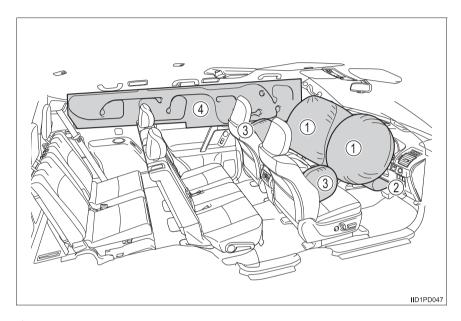
●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロントシート・セカンドシート外側席、サードシート※乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

※ 7 人乗り車のみ

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 51）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

IID1PD037

- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

IID1PD038

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

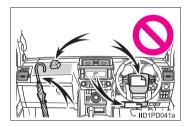
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

IID1PD039

●助手席やセカンドシート外側席・サードシート（7 人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

IID1PD040

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

IID1PD041a

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

IID1PD042

警告

■SRS エアバッグについて

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部・センターピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- ●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●作動音と共に白いガスが発生します。
- ●フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ●G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、SRS エアバッグが作動すると※自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※ SRS エアバッグが作動しなかった場合でも、緊急通報が送信されることがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- ●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- ●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

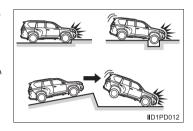
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

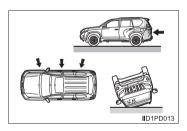
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

IID1PD012

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

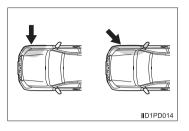
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

IID1PD013

■SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRSサイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

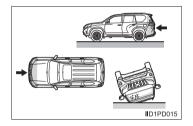
●斜めからの衝撃

IID1PD014

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

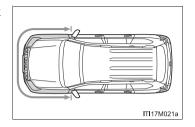
●後方からの衝突

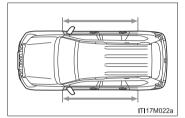
●横転

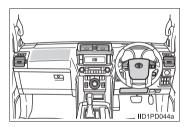
IID1PD015

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

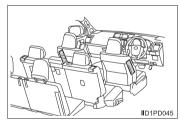
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

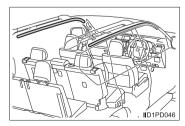
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITI17M021a

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITI17M022a

- ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

IID1PD044a

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

IID1PD045

- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

IID1PD046

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 92)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 141)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 51)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

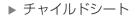
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0+ に相当

ITO17M108

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0+、I に相当

ITO17M109

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

ITO17M110

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		サードシート（7人乗り車の場合）
	助手席	左右席	中央席	
0（10kg まで）	×	U	L1	L1
0+（13kg まで）	×	U	L1	L1
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF ※1 うしろ向き×	U	L2 ※2	L3 ※3
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※1	U	L4 ※2	L4 ※4
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※1	U	L4 ※2	L4 ※4

● 表に記入する文字の説明

U：　この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY」、「トヨタ純正NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正NEO G-Child baby」に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正 NEO G-Child baby」に適しています。

L3：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L4：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：　子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※ 2 子供専用シートを取り付ける際はヘッドレストを最下段位置にしてください。

※ 3 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストを最上段位置にしてください。

※ 4 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL2 ※
	B1	ISO/F2X	IUF, IL2 ※
	A	ISO/F3	IUF, IL2 ※
II（15 ～ 25kg）		（1）	×
III（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A　から　G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY」、「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>サイズ等級</th><th>固定具</th><th>ISOFIX 子供専用シート</th><th>カテゴリー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">0（10kg まで）</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO
G-Child ISO BABY</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO
G-Child ISO leg</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">0+（13kg まで）</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO
G-Child ISO BABY</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td rowspan="3">トヨタ純正 NEO
G-Child ISO leg</td><td rowspan="3">準汎用</td></tr>
<tr><td>D</td><td>ISO/R2</td></tr>
<tr><td>C</td><td>ISO/R3</td></tr>
<tr><td rowspan="3">I（9 ～ 18kg）</td><td>B</td><td>ISO/F2</td><td rowspan="3">トヨタ純正 NEO
G-Child ISO leg</td><td rowspan="3">準汎用</td></tr>
<tr><td>B1</td><td>ISO/F2X</td></tr>
<tr><td>A</td><td>ISO/F3</td></tr>
</table>

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 46）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

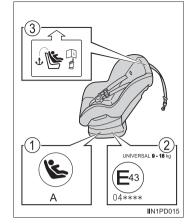
(例 1)：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例2)：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL1」・「IL2」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 47）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

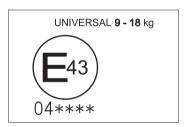
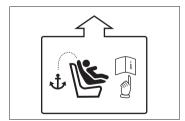
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順**2**で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③ トップテザー（→ P. 51）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- ●背もたれを直立状態にする
- ●シートをいちばんうしろにさげる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

- ●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシート（7 人乗り車のみ）に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 52）

ITO17M112

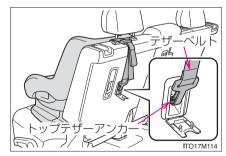
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 54）

セカンドシートの外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

ITO17M113a

トップテザーアンカー（→ P. 56）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートのそれぞれの座席に装備されています。

ITO17M114

シートベルトで固定する

1 背もたれの角度を調整する

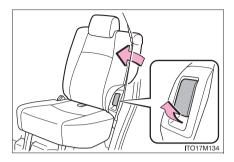
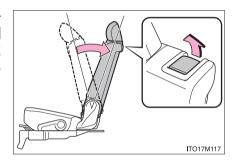
▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→ P. 114）

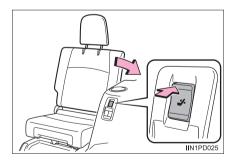
ITO17M134

▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→ P. 114）

ITO17M117

▶ サードパワーシート

チャイルドシートをサードシートに取り付けるときは、の上側を押して、背もたれをいっぱいまでうしろに倒します。（→ P. 112）

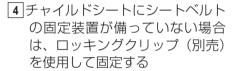
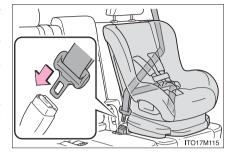
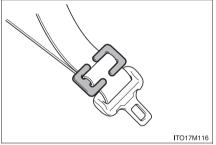
IIN1PD025

2 ヘッドレスト位置の指定の有無を確認する（→ P. 44）

チャイルドシートを取り付ける際に、ヘッドレストの操作が必要なシートの場合は、表の指示に従ってヘッドレストの位置を調整してください。

ヘッドレストの操作については P. 129 を参照してください。

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備っていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ品番：
73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 背もたれの角度を調整する

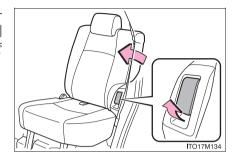
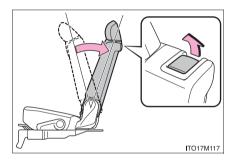
▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→ P. 114）

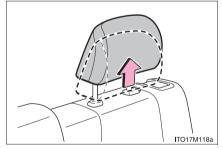
ITO17M134

▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→ P. 114）

ITO17M117

2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

図は 7 人乗り車で代表しています。

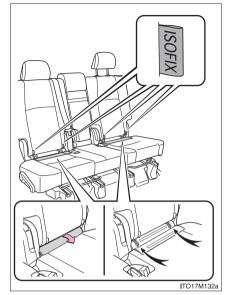
ITO17M118a

3 固定専用バーの位置を確認する

▶ 5人乗り車

固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

▶ 7人乗り車

固定専用バーはカバーの下側にあります。

図は 7 人乗り車で代表しています。

4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

5 フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ITO17M120

6 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

ITO17M121

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート（7人乗り車のみ）に取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●セカンドシート右側席にチャイルドシートを取り付けたときはセカンドシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

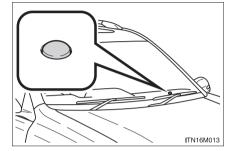
排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

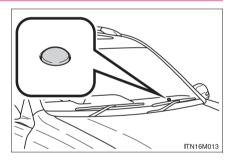
- 施錠されたドアまたはバックドアガラスが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ G-BOOK mX Proをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネット・バックドアガラスを閉め、すべてのドアを施錠※します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ONモードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

●ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

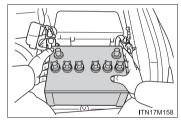
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき

ITN17M157

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 360）

ITN17M158

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 373）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

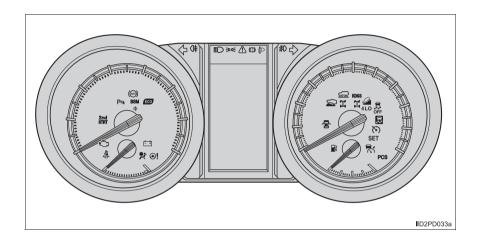
■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方 2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 323)

※ 1
マスターウォーニング
(→ P. 325)

※ 1
パワーステアリング警告灯
(→ P. 324)

※ 1
充電警告灯
(→ P. 323)

※ 1
スリップ表示灯(点灯したままのとき)(→ P. 324)

※ 1
エンジン警告灯
(→ P. 324)

※ 1
KDSS
KDSS 警告灯★
(→ P. 324)

※ 1
ブレーキ警告灯
(→ P. 323)

※ 1
シートベルト非着用警告灯
(→ P. 325)

※ 2
半ドア警告灯
(→ P. 325)

※ 1
ヘッドランプオートレベリング警告灯★(→ P. 324)

※ 1
SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯
(→ P. 324)

※ 1
LED ヘッドランプ警告灯★
(→ P. 324)

※ 1
ABS &ブレーキアシスト警告灯(→ P. 324)

※ 1
燃料残量警告灯
(→ P. 325)

※ 1,3
PCS
PCS 警告灯★(点滅したままのとき)(→ P. 325)

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に、半ドア警告表示が表示されます。(→ P. 328)

※ 3 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★:仕様により異なる装備やオプション装備

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→ P. 173)

ヘッドランプ
上向き表示灯(→ P. 175)

尾灯表示灯
(→ P. 175)

フロントフォグランプ
表示灯(→ P. 179)

リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 180)

2nd STRT

2nd STRT 表示灯
(→ P. 169)

※ 1

クルーズコントロール
表示灯★(→ P. 192, 196)

車間制御モード表示灯★
(→ P. 196)

SET

セット表示灯★
(→ P. 196)

※ 2

(点滅)

スリップ表示灯
(→ P. 218)

※ 2

VSC OFF 表示灯
(→ P. 219)

※ 2

TRC OFF

TRC OFF 表示灯★
(→ P. 219)

※ 3

4LO

L4 作動表示灯

※ 3

センターデフロック作動
表示灯

※ 3

リヤデフロック作動
表示灯★

※ 2

ECO

エコドライブインジケーター
ランプ(→ P. 80)

クリアランスソナー表示灯★
(→ P. 208)

※ 2, 3

クロールコントロール
表示灯★

※ 3

マルチテレインセレクト
表示灯★

※ 2, 3

ダウンヒルアシストコント
ロールシステム表示灯★

※ 2

PCS

(点灯または
速い点滅)

PCS 警告灯★(→ P. 325)

★:仕様により異なる装備やオプション装備

※1 レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

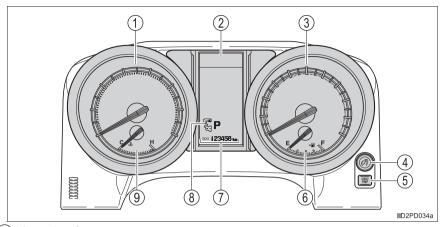
※2 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 73)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 327)

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ メーター照度調整ダイヤル

→ P. 71

⑤ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→ P. 71

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。

⑦ オドメーター・トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

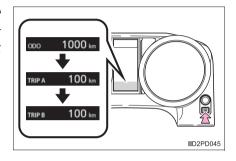
⑧ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 167)

⑨ 水温計

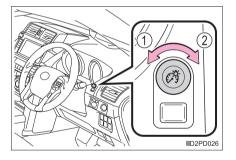
エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

メーター照度調整

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

① 暗くなる

② 明るくなる

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- ●トリップメーター A
- ●トリップメーター B

バッテリーを脱着後は、オドメーターが表示されます。

■メーター照度の減光制御について

ランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。
ただし、メーター照度調整ダイヤルを右側いっぱいにまわした状態では、ランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面※は夜画表示には切りかわりません。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- ●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- ●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 362）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。また、クリアランスソナー（装着車のみ）など、各種機能の設定操作にも使用します。

IID2PD035

① マルチインフォメーションディスプレイ

② メニュースイッチ

各機能の画面に表示を切りかえます。

③ “ ENTER ” スイッチ

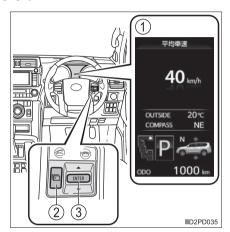
ドライブモニターの表示項目の切りかえや、各設定画面での操作に使用します。

- スイッチモード（→ P. 74）

  セカンドスタートモードやクリアランスソナーの ON･OFF を設定できます。

- トリップインフォメーション（→ P. 75）

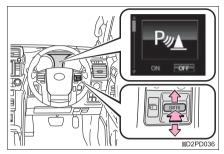
  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- その他の機能（→ P. 77）

スイッチモード

セカンドスタートモードやクリアランスソナー★の ON・OFF を設定することができます。

■ 設定変正のしかた

1 を押して、スイッチモードの設定画面を表示する（→ P. 73）

2 ENTER を上下に操作して設定する項目を選択し、ENTER を押す

スイッチを押すたびに、選択した機能の ON・OFF が切りかわります。

各機能を ON にすると、設定した機能の表示灯が点灯します。

3 を押して、もとの画面にもどす

■ 設定可能な機能

- クリアランスソナーの ON・OFF★（→ P. 208）
- セカンドスタートモードの ON・OFF（→ P. 169）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーションの機能

を下に操作するごとに、表示が次のように切りかわります。（上に操作すると、前の項目にもどります）

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速の表示中に

を押し続けます。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 給油後平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・リセットするには、平均燃費の表示中に

を押し続けます。

・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→ P. 80

■ 走行時間

エンジンを始動してからの走行時間を通算で表示します。

リセットするには、走行時間の表示中に

ENTER を押し続けます。

■ 傾斜計表示（L4L ／ L4 のみ）

車両の傾き角度を表示することができます。
（→別冊「オフロード走行取扱書」）

■ デフロック表示（L4L ／ L4 のみ）

→別冊「オフロード走行取扱書」

■ アクティブ TRC 表示★

→別冊「オフロード走行取扱書」

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

その他の機能

■ シフトポジション・シフトレンジ表示

現在のシフトポジション･シフトレンジが表示されます。(→ P. 167)

■ レーダークルーズコントロールの情報表示★

レーダークルーズコントロール使用時、車間モードや警告画面などの情報が自動で表示されます。(→ P. 196)

■ リヤハイトコントロールエアサスペンション表示★

現在の車高モードが表示されます。(→別冊「オフロード走行取扱書」)

■ マルチテレインセレクトの表示★

現在のマルチテレインセレクトのモードが表示されます。(→別冊「オフロード走行取扱書」)

■ セカンドスタート表示

→ P. 169

■ クリアランスソナー距離表示★

クリアランスソナーの使用時、車両各部のセンサーが障害物を感知すると、自動で表示されます。(→ P. 208)

■ 警告メッセージ

車両についてお知らせしたい事項が発生したとき、警告の内容などが自動で表示されます。(→ P. 327)

■ 外気温

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

外気温度が3℃以下となった場合に凍結している恐れがあることを知らせる為、( ) が点灯します。

■ ルート案内表示設定画面★

→ P. 78

ルート案内表示設定画面が表示されない場合は、一度目的地設定を行ってください。一度目的地設定をすると、ルート案内表示の設定画面が表示されます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ コンパス表示

→ P. 80

■ メーターカスタマイズ機能

車両に関する各種の設定を変更できます。(→ P. 373)

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■システムチェック表示

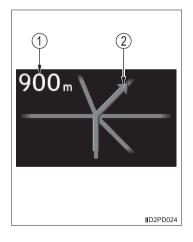
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のために映像画面が表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■ルート案内表示について★

ルート案内表示は、ナビゲーションシステムの目的地案内設定をしているときに表示されます。分岐する交差点に近づくと、分岐までの距離、分岐方向が表示されます。

① 分岐までの距離

② 分岐方向

ルート案内表示の形状は、実際と異なる場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■**スイッチモードの設定画面が終了するとき**

次の場合は、スイッチモードの設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

● [icon] を押したとき

●クロールコントロールの操作を行ったとき★

●レーダークルーズコントロールの操作を行ったとき★

●クリアランスソナーの使用時、センサーが障害物を感知したとき★

●警告メッセージが表示されたとき

■**バッテリー端子の脱着をしたときは**

●バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

・給油後平均燃費
・平均燃費
・平均車速
・走行時間

●バッテリー端子の脱着を行うと、次の設定は初期化されます。

・ルート案内表示

■**外気温度表示について**

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■**外気温度表示で“--”または“E”が表示されたときは**

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■方位計の表示と方位

表示	方位
N	北
NE	北東
E	東
SE	南東
S	南
SW	南西
W	西
NW	北西

■エコドライブインジケーターについて

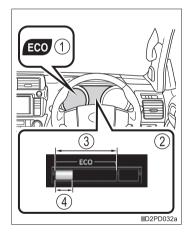
●環境に配慮したアクセル操作をしているかどうかを確認できます。
バー表示がエコ運転の範囲内にあり、エコドライブインジケーターランプが点灯しているとき、環境に配慮したエコ運転中であることを示しています。

① エコドライブインジケーターランプ(→ P. 68)

② エコドライブインジケーターゾーン表示

③ エコ運転の範囲

④ 現状のアクセル開度

アクセル操作に連動してバー表示が変化します。
バー表示がエコ運転の範囲をこえると、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側部分が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。

●エコドライブインジケーターは、次の条件のときに作動します。

・ シフトポジションが D で走行中
・ セカンドスタートモード(→ P. 169)を使用していないとき
・ 車速が約 100km/h 以下のとき

●エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。
(→ P. 373)

警告

■スイッチモードについて

走行中に操作する場合は、周囲の安全に十分注意してください。

■低温時の画面表示について（1GR-FE エンジン搭載車）

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
S モードでの走行時、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで、運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

燃費画面★／ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

表示のしかた

1 「情報・G」スイッチを押す

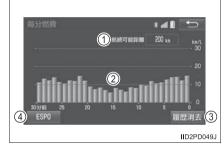
2 燃費画面：「情報・G」画面の「燃費」を選択する
ESPO 画面：「情報・G」画面の「ESPO」を選択する

燃費画面の見方

① 履歴消去

② 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

③ 航続可能距離

④ ESPO 画面を表示する
（→ P. 83）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ESPO 画面の見方

① 更新スイッチ※

走行情報などをG-BOOKセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

② 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

③ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

④ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

⑤ エコカルテスイッチ

G-BOOK の ESPO メニューが表示され、燃費ランキングなどが確認できます。

⑥ 毎分燃費スイッチ

燃費画面を表示します。（→ P. 82）

⑦ エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

⑧ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

⑨ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good · Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑩ ステータス表示※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-BOOK センターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

※：G-BOOK オンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

知識

■G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

キー

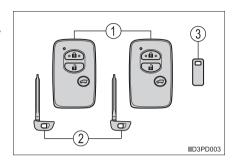
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 105）
- ・ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

IID3PD003

ワイヤレスリモコン

① ドアの施錠（→ P. 89）

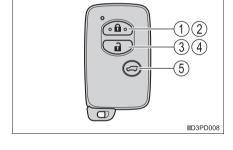
② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 89）

③ ドアの解錠（→ P. 89）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 89）

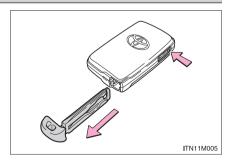
⑤ バックドアガラスの解錠（→ P. 100）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 373）

IID3PD008

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 355）

ITN11M005

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、グローブボックスを施錠（→ P. 249）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 335）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - 作動範囲が狭くなった
  - 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
  - TV
  - パソコン
  - 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - 電気スタンド
  - 電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 290

注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

IID3PD023

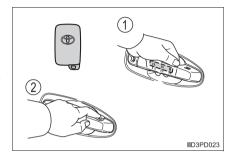
1. フロント席ドアハンドルを握って解錠する

   ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

   施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2. フロント席ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

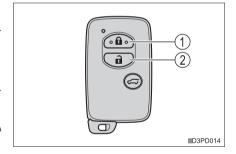
◆ ワイヤレスリモコン

IID3PD014

1. 全ドアを施錠する

   押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

2. 全ドアを解錠する

   押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 373）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■作動の合図

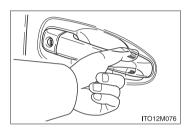
ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 62)

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 355)

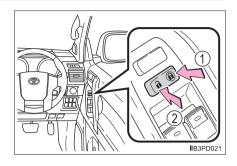
●電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 290)

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

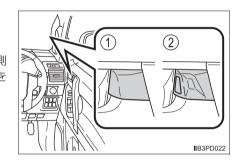
② 全ドアを解錠する

IIB3PD021

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

IIB3PD022

キーを使わずに外側からフロント席を施錠

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

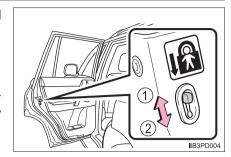
エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 375 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 43 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 355)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 108

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● すべてのドアを確実に閉め、施錠する
● 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

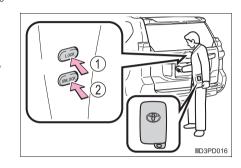
車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

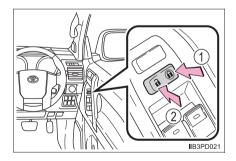
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 89

車内からの施錠・解錠

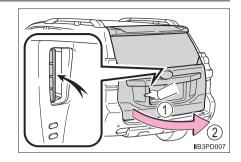
◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

バックドアを開けるには

① バックドアハンドルを引く

② バックドアを開ける

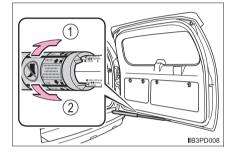
IIB3PD007

バックドアを開けた状態で固定するには

① ロックを解除する

② ロックする

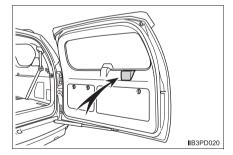
バックドアが全開のときにのみ、バックドアステーをロックすることができます。

バックドアを閉める前に、必ずロックを解除してください。

IIB3PD008

バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き、必ず外から押して閉めてください。

バックドアを閉めるときは、バックドアグリップを握ったまま操作しないでください。

IIB3PD020

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアステーをロックしていない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアステーをロックした状態で行ってください。

IIB3PD011

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

IIB3PD012

- バックドアの開閉時は、バックドアステーにふれないでください。
  手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じ、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

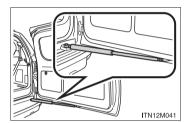
■**バックドアを開けて駐停車するときは**

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■**バックドアステーについて**

バックドアには、バックドアの動きを制限するためのステーが取り付けられています。バックドアステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーの上に乗ったり、ものを載せたりしない。また、無理な力をかけない

バックドアガラス

バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使ってバックドアガラスを開くことができます。

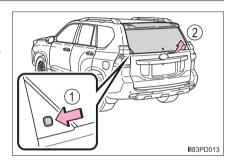
バックドアガラスの開け方

◆ バックドアガラスオープンスイッチ

① スイッチを押すとバックドアガラスが少し開く

② バックドアガラスを持ち上げる

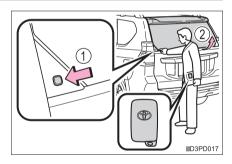
バックドアが施錠されているときは、バックドアガラスを開くことができません。バックドアを解錠してから、バックドアガラスを開きます。(→ P. 95)

IIB3PD013

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

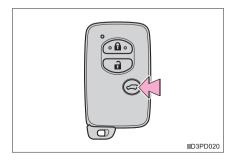
① 電子キーを携帯してスイッチを押すとバックドアガラスが少し開く

② バックドアガラスを持ち上げる

バックドアが施錠されているときも、バックドアガラスを開くことができます。

IID3PD017

◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続けるとバックドアガラスが少し開く

IID3PD020

知識

■バックドアガラスを開けるときは

●バックドアガラスはゆっくりと開いてください。

●バックドアが閉まっているときに、バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使用してください。

■作動の合図（ワイヤレスリモコン使用時）

バックドアガラスが開いたことをブザーで知らせます。

■リヤワイパー・リヤウォッシャーの作動中は

バックドアガラスが開くと、リヤワイパー･リヤウォッシャーが停止します。バックドアガラスを閉めると、作動が再開します。

■バックドアガラスを閉めたあとは

バックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが正常に作動しなくなります。

■キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、車室内に電子キーを置いたままバックドアガラスを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、バックドアガラスオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーを車室内に入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、バックドアガラスを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態で、車室内にキーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、車室内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、バックドアガラスを閉めたときに施錠されてしまいます。バックドアガラスを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンによるバックドアガラス解錠操作の設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 373）

警告

■**バックドアガラスの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアガラスを開ける前に、バックドアガラスに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアガラスが落下するおそれがあります。

●バックドアガラスを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアガラスが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●ダンパーステーを持ってバックドアガラスを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、ダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアガラスに重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアガラスが突然閉じ、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアガラスへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

●半開状態で使用すると、バックドアガラスが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアガラスの開閉がしにくく、急にバックドアガラスが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアガラスが全開で静止していることを確認して、使用してください。

⚠警告

●バックドアガラスを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアガラスは必ず外から軽く押して閉めてください。

●お子さまにはバックドアガラスの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアガラスが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の警告

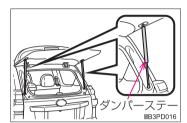
●走行中はバックドアガラスを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアガラスが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアガラスが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。
バックドアガラスが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアガラスが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアガラスにはバックドアガラスを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

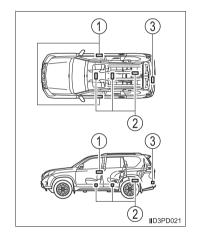
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する　（→ P. 89）
- バックドアを施錠・解錠する　（→ P. 95）
- バックドアガラスを解錠する　（→ P. 100）
- エンジンを始動する（→ P. 162）

知識

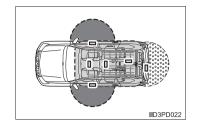
■アンテナの位置

①車外アンテナ
②車内アンテナ
③ラゲージルーム外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●: ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●: バックドアガラスの解錠時またはバックドアの施錠・解錠時

バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

●: エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
(→ P. 327)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした※	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	すべてのドアが施錠、かつ車室内に電子キーがある状態でバックドアガラスを閉めた	バックドアガラスオープンスイッチを押してバックドアガラスを開き、車室内から電子キーを取り出す
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

※ バックドアガラスのみが開いているときは警報されないため、バックドアガラスの閉め忘れにご注意ください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 355）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・バックドアガラスの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央部に近付きすぎた場合
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバー（装着車のみ）上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 373)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 333)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアガラスの施錠・解錠：→ P. 355

●エンジンの始動：→ P. 355

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 89, 355)

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 355

●エンジンの停止：→ P. 163

警告

■電波がおよぼす影響について

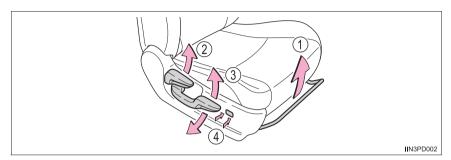
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ページングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ(→ P. 105)から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ページングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ページングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

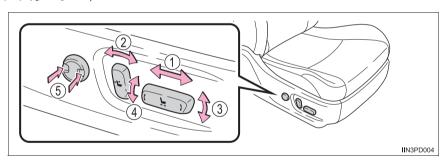
▶ マニュアルシート

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整※

④ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート

※ 運転席のみ

▶ パワーシート

① 前後位置調整

② リクライニング調整

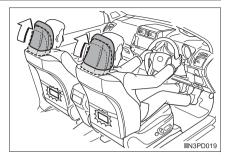
③ クッション前端の上下調整※

④ シート全体の上下調整※

⑤ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

※ 運転席のみ

アクティブヘッドレスト

後方から衝突された際、乗員の腰がシートバックを押すことで、内蔵された機構が作動し、ヘッドレストが斜め上方に移動します。

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

調整のしかた

▶ セカンドシート（5 人乗り車）

リクライニング調整

ITN13M111

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

① リクライニング調整

② 前後位置調整

IIN3PD010

▶ サードシート（7 人乗り車）（パワーシート）

リクライニング調整

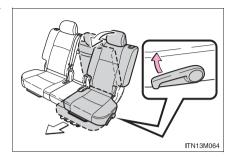
ITN13M062

サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

■ 乗車するときは（助手席側のみ）

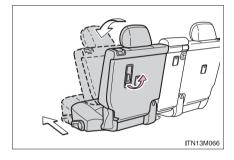
リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

サードシートに乗り込んだあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

■ 降りるときは（助手席側のみ）

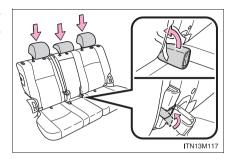
背もたれの背面にあるレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

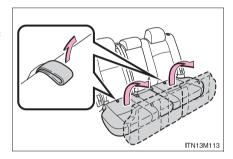
車から降りたあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

セカンドシートの格納（5人乗り車のみ）

■ セカンドシートを格納する前に

中央席シートベルトのバックルをバンドで固定し(5 人乗り車のみ) ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

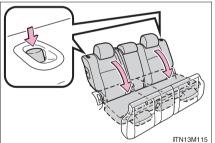
ITN13M117

■ セカンドシートを格納するには

1 ロックの解除ストラップを引いてシートクッションを引き起こす

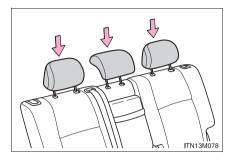
ITN13M113

2 背もたれを手で支えながらロック解除ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

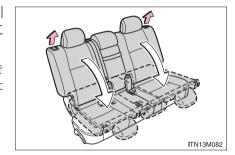
背もたれをもとの位置にもどすときは、ロックされるまで背もたれを起こしてください。

ITN13M115

セカンドシートの前倒し（7人乗り車のみ）

■ セカンドシートを前倒しする前に

ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

■ セカンドシートを前倒しするには

前倒しレバーをいっぱいまで引き上げたまま、背もたれを前方に倒す

背もたれをもとの位置にもどすときは、確実にロックされるまで背もたれを起こしてください。

サードシートの格納（サードマニュアルシート装着車）

■ 格納する前に

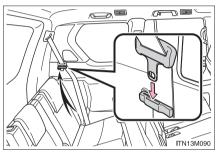
ヘッドレストを下げる

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

ITN13M088

サードシートのシートベルトを格納する

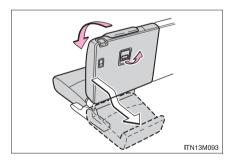
シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

ITN13M090

■ 格納するには

▶ バックドア側から操作するとき

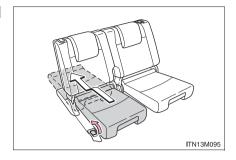
背もたれ背面のレバーを引く

シートクッションと背もたれのロックが同時に解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

ITN13M093

▶ 車室内から操作するとき

1 シート下部にあるレバーを引く

ロックが解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

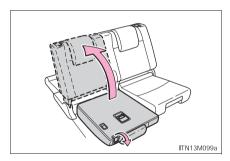
ITN13M095

2 シートクッションが格納されたのを確認し、ヘッドレストの横にあるレバーを引きながら、背もたれを前に倒す

ITN13M097

■ もとにもどすには

1 背もたれを起こす

車室内からヘッドレストの横にあるレバーを引いてロックを解除したあと、固定される位置まで背もたれを起こします。

ITN13M099a

2 グリップを手前に引いて、シートクッションを引き出す

ITN13M101

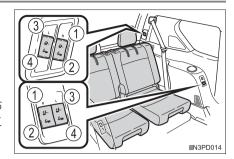
サードシートの格納（サードパワーシート装着車）

① 復帰スイッチ（運転席側用）

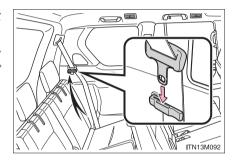
② 格納スイッチ（運転席側用）

③ 復帰スイッチ（助手席側用）

④ 格納スイッチ（助手席側用）

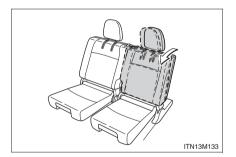
シート横またはバックドア横の、どちら側のスイッチでも同様に操作することができます。

■ 格納する前に

サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

■ 格納するには

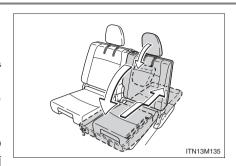
1 を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれが前方に動きます。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

ブザーが 2 回鳴り、背もたれが垂直付近で自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

2 を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

背もたれの前倒し作動に合わせて、ヘッドレストが自動で前に倒れ、背もたれが完全に前に倒れます。

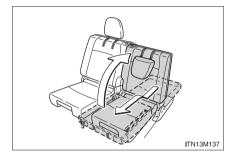
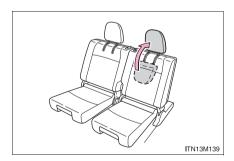
格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

■ もとにもどすには

  を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

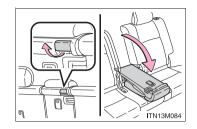
復帰作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

2 ヘッドレストをもとにもどす

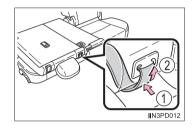
ヘッドレストを引き起こします。

知識

■中央席の前倒しについて

中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。

■前倒ししたあと、背もたれが引き起こせない場合は（7人乗り車の運転席側シート）

① 背もたれの先端を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる

② シートベルトを少し巻き取らせてシートベルトのロックを解除する

■サードシート格納時の作動条件（サードパワーシート装着車）

エンジンスイッチが OFF、またはイグニッション ON モードで、シフトレバーの位置が P にあるとき

■サードシートの格納作動中は（サードパワーシート装着車）

作動開始後は、自動停止するまでスイッチから手を離さないでください。
スイッチから手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。
再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は（サードパワーシート装着車）

システムに異常が発生すると、エンジンスイッチがイグニッション ON モードのあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。
その際は、次の操作を行ってください。

1 を押し続けてシートを復帰する

2 を押し続けてシートを格納する

各操作時は、シートが自動停止してブザーが 2 回鳴るまで、スイッチから手を離さないでください。

以上の処置で警告ブザーが止まらないときは、続けて次の操作を行ってください。

3 を押し続けてシートを復帰する

4 を押し続けた状態のまま約 10 秒以内に を 5 回押す

ブザーが 3 回鳴ったあと、連続で鳴り続けます。

5 再度手順 1 〜 2 の操作を行う

以上の処置を行っても異常が解消しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートを操作するときは**

●走行中にシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■**サードシートを格納するときは**

●操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する

●操作はゆっくり行う（サードマニュアルシート装着車）

●シート可動部分には絶対に手や足などを入れない

●お子さまにシートの操作をさせない

●シートクッションだけを格納した状態で使用しない
（サードマニュアルシート装着車）

■**リクライニング調整について**

背もたれを必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートをもとにもどしたあとは（セカンドシート）**

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
5 人乗り車ではシートが確実に固定されていない場合、ボタンのまわりに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

警告

■シートをもとにもどしたあとは（サードシート）

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
（サードマニュアルシート装着車）

●シートベルトを挟み込まないようにする

●シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する

●ヘッドレストをもとどおりに起こす（サードパワーシート装着車）

注意

■シートを操作するときは

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

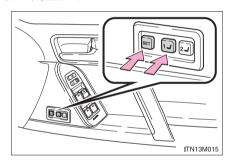
自動でシート・ハンドルを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

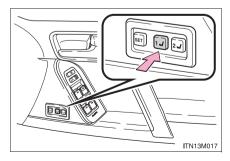
ポジションの登録

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、2 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 運転席・ハンドルをお好みの位置に調整する
4. “ SET ” ボタンを押しながら、または “ SET ” ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

   すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ 呼び出し方法

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 1 ～ 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- “SET” ボタンを押す
- 1 ～ 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

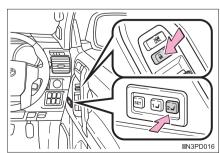
お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 2）を呼び出す
4. 呼び出したポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

   登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1. エンジンスイッチを ON モードにする
2. SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

● 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

● 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ 登録できるシート位置（→ P. 112）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 377）

警告

■ シート調整時の警告

シート調整時は、シートがセカンドシート乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

■ フロントシート、セカンドシート、サードマニュアルシート★

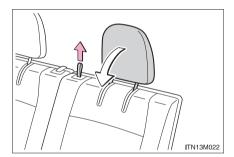
① 上がる

② 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

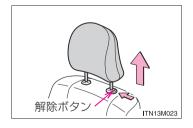
■ サードパワーシート★

ストラップを引くと、ヘッドレストが前に倒れます。

もとにもどすときは、ヘッドレストを引き上げます。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

▶ フロントシート、セカンドシート、サードマニュアルシート

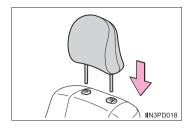
解除ボタンを押しながら取りはずします。

▶ サードパワーシート

ヘッドレストを取りはずすことはできません。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

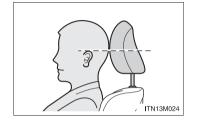
■ヘッドレストを取り付けるときは（サードパワーシートを除く）

挿入穴にヘッドレストを挿入し、ヘッドレストがロックする位置まで押し込みます。

IIN3PD018

■ヘッドレストの高さについて※1

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

※1 5人乗り車のセカンドシートおよび、7人乗り車のセカンドシート中央席・サードシートを除く

ITN13M024

■セカンドシート※2・サードマニュアルシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

※2 7人乗り車の左右席を除く

ITO14F026

■サードパワーシートのヘッドレストの使用について

シートを使用するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

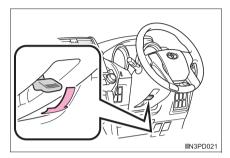
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする（サードパワーシート装着車）

ハンドル

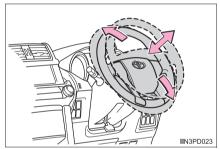
調整のしかた

▶ 手動での調整
（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

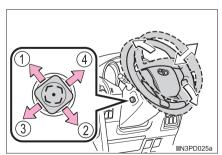
1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

IIN3PD021

2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

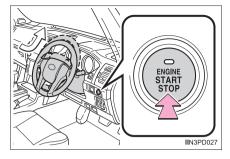
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

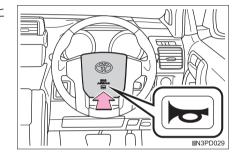
IIN3PD023

▶ 電動での調整
（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

① 上方へ
② 下方へ
③ 前方へ
④ 手前へ

IIN3PD025a

オートアウェイ＆オートリターン機能★

エンジンスイッチをOFFにすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 📯 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 126）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

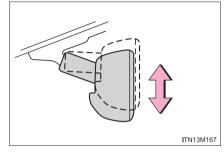
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

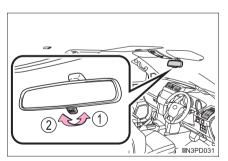
運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

▶ マニュアル防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

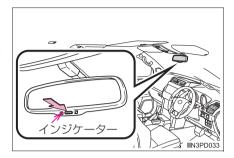
① 通常使用時

② 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

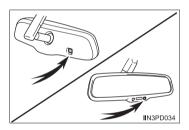
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

自動モードの ON･OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤操作作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

⚠ 警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

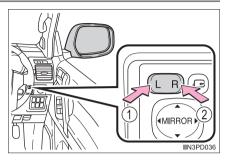
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

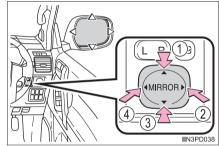
IIN3PD036

2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

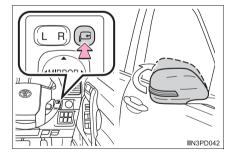
④ 左

IIN3PD038

ドアミラーを格納する

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

IIN3PD042

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→ P. 237）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

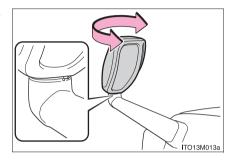
手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

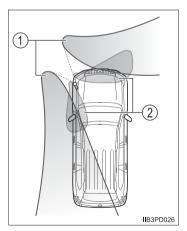
発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

① 地面が視認できる範囲

② 地上約 1m の高さまで視認できる範囲

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

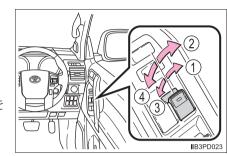
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

① 閉める

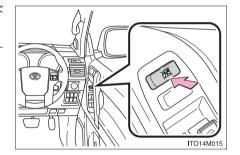
② 自動全閉※

③ 開ける

④ 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1. パワーウインドウスイッチを押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒間押し続ける
2. パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などを設定することができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

ITO14M005a

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。

● お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉･チルトアップ／ダウンできます。

開閉

IIB3PD024

① ムーンルーフを開く※

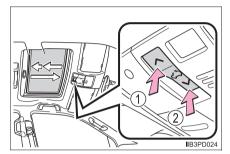
全開の手前の位置で止まります。（風切音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

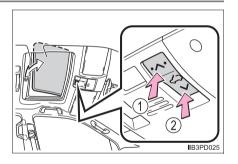
② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

チルトアップ／ダウン

IIB3PD025

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが OFF で、ムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 の“∨”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。
チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 の“∧”側を押し続け※1 ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 から一度手を離し、再度“∧”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、 の“∨”または、 の“∧”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 162

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 167）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 174）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 167）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 シフトレバーを P にする（→ P. 167）

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 174）

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロール★について

ヒルスタートアシストコントロールにより、車両の後退を緩和し、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→別冊「オフロード走行取扱書」)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**運転するとき**

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 316を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 169)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**駐車するとき**

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**仮眠するとき**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ブレーキをかけるとき**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したとき**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転中しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーをＰにしてください。Ｐにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 337 を参照してください。

注意

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。※

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

※ 必要な注意事項を守って渡河を行う場合を除く
渡河を行う際の注意事項については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー（装着車のみ）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ルーフレール装着車）

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

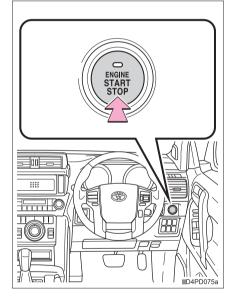
3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

エンジン停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 174）

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてエンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

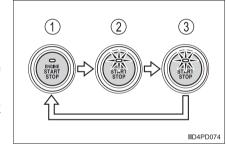
オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 エンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 87

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 108

■ご留意いただきたいこと

→ P. 109

■エンジンが始動しないとき

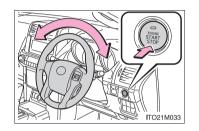
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 61)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、エンジンスイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 290

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 355

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 316）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

● エンジンスイッチのインジケーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。
エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

● シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■**エンジンを始動するとき**

● エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

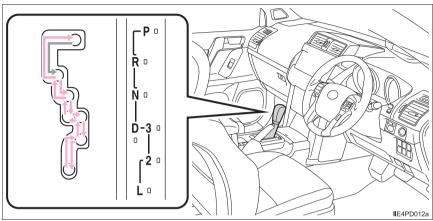
● もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■**エンジンスイッチの操作について**

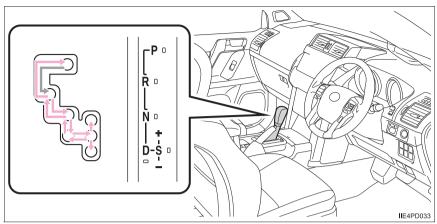
エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方

▶ 2TR-FE エンジン搭載車

⬅ エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2TR-FE エンジン搭載車	1GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジンの始動・停止	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※1	
S		S モード走行※2（→ P. 170）
3	坂道走行	
2	下り坂走行	
L	急な下り坂走行	

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

走行モードの選択

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

切りかえ方法：→ P. 74

セカンドスタートモードのときは 2nd STRT が点灯します。

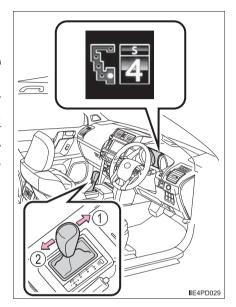
S モードでのシフトレンジ切りかえ（1GR-FE エンジン搭載車）

シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1 ～ 5 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは4レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。（→ P. 171）

■ シフトレンジ機能

● エンジンブレーキ力は、5 段階から選択が可能です。

● シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■S モード（1GR-FE エンジン搭載車）

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを＋側へ保持すると、5 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

1GR-FE エンジン搭載車は、安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

1GR-FE エンジン搭載車は、S モード走行時に 4 へシフトダウンしても、エンジンブレーキは効きません。（→ P. 192, 196）

■セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→ P. 354

■シフトレバーを S にしても“ S ”が点灯しないときは（1GR-FE エンジン搭載車）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
（1GR-FEエンジン搭載車では、シフトレバーをSにすると、機能が解除されます）

■NAVI・AI-SHIFTについて★

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。
使用方法は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

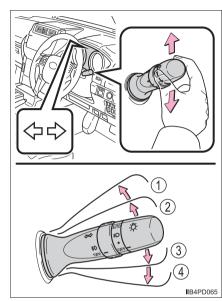
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

知識

■作動条件

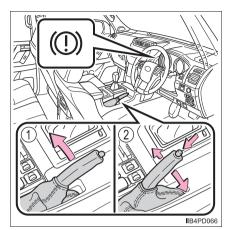
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 328

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 231

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

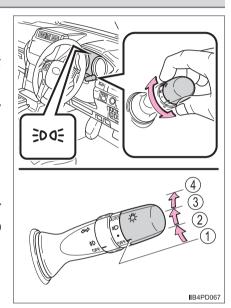
操作のしかた

① OFF 消灯

② ● 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ AUTO ヘッドランプ、LED デイライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)

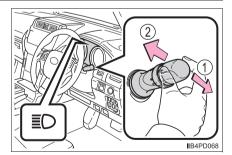
IIB4PD067

ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

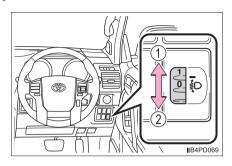
② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

IIB4PD068

手動光軸調整ダイヤル★

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ 5人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ 7人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者と助手席乗員、および、サードシートに2名乗車	なし	1
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4

知識

■LED デイライト★

あなたのお車を他の運転者からより見やすくするために、エンジンを始動し、パーキングブレーキを解除すると車幅灯が自動で点灯します。LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプや尾灯などが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

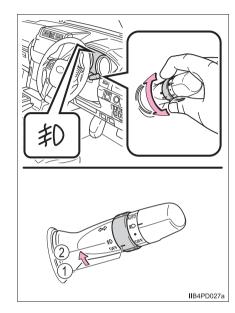
★：仕様により異なる装備やオプション装備

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

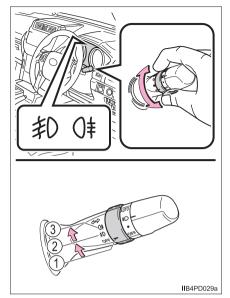
① OFF 消灯する

② 点灯する

▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ

① OFF 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：
フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー

① 間欠作動（INT）

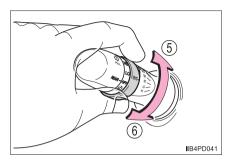
② 低速作動（LO）

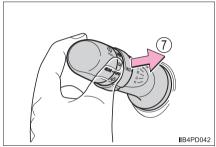
③ 高速作動（HI）

④ 一時作動（MIST）

間欠作動が選択されているときは、次のようにツマミをまわして間欠時間を調整できます。

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

▶ 雨滴感知式ワイパー

“AUTO”を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

① 雨滴感知オート作動（AUTO）

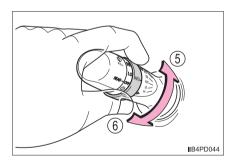
② 低速作動（LO）

③ 高速作動（HI）

④ 一時作動（MIST）

“AUTO”が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

⑤ 雨滴センサーの感度調整（低）

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)

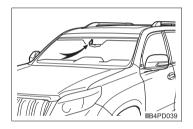
ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが 1 回作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●ワイパースイッチが AUTO モードのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－ 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動（LO）

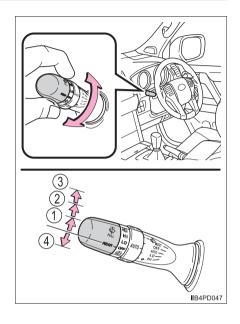
② 通常作動（HI）

③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードで、バックドアガラス（→P. 100）が閉まっているとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

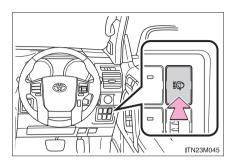
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているとき

■フロントガラスウォッシャー連動作動

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでヘッドランプが点灯しているときに、フロントガラスのウォッシャーを作動させると、ヘッドランプクリーナーが 1 回作動します。(→ P. 181)

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

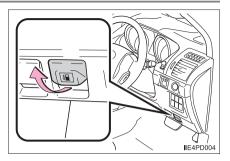
■給油するとき

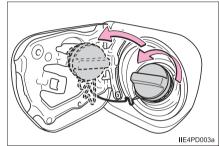
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

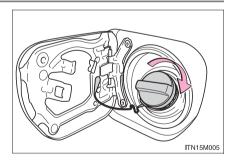
1 オープナーを上げて、給油口を開ける

IIE4PD004

2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

IIE4PD003a

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

ITN15M005

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

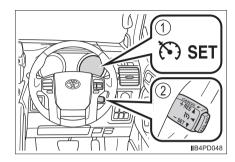
必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

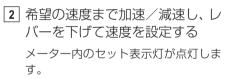
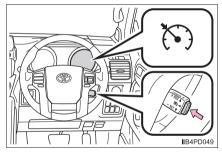
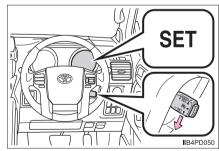
メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

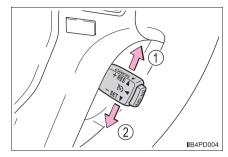
★：仕様により異なる装備やオプション装備

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

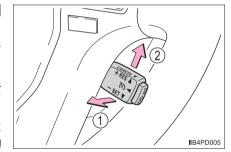
調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h
調整　：レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●次のシフトポジション（シフトレンジ）のとき設定できます。

・ 2TR-FE エンジン搭載車：D または 3
・ 1GR-FE エンジン搭載車：D または S モードの 4・5 レンジ

●車速は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズシステムチェック」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

●車両けん引時

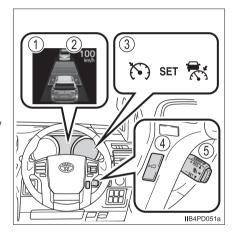
レーダークルーズコントロール★

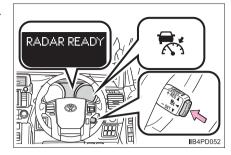
機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

① マルチインフォメーションディスプレイ
② 設定速度
③ 表示灯
④ 車間距離切りかえスイッチ
⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ

★：仕様により異なる装備やオプション装備

車速を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

IIB4PD052

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

IIB4PD053

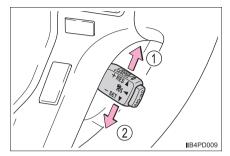
設定速度をかえるには

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h
調整　：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード(→ P. 202)では、設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h
調整　：レバーを保持するあいだ

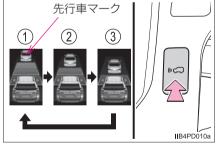
車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→ P. 198)
(80km/h で走行している場合)
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

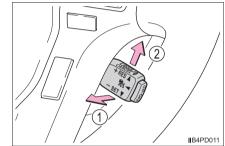
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させるには

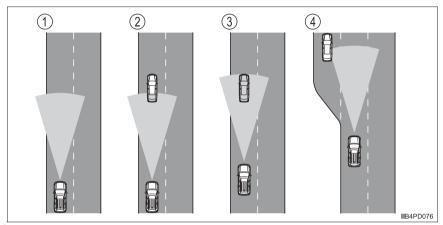
① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

① 定速走行
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 追従走行
設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

④ 加速走行
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

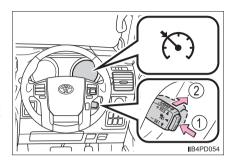
- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

① ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度をかえるには
→ P. 198

制御を解除する・復帰させるには
→ P. 199

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●実際の車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき）

●走行モードをセカンドスタートモードにセットした

●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の車速が約 40 km/h 以下になった

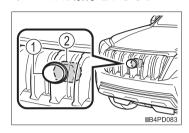
●VSC が作動した

●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるために、センサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 323, 327)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

⚠警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき
- ●車両けん引時

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 201）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーの取り扱い

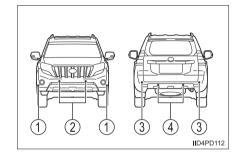
レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー

クリアランスソナースイッチ

切りかえ方法：→ P. 74

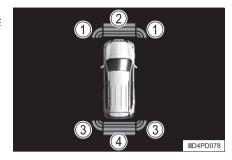
クリアランスソナーを ON にすると が点灯し、ブザー※が鳴ります。

※ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後は、ブザーが鳴らない場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示
② フロントセンサー作動表示
③ リヤコーナーセンサー作動表示
④ バックセンサー作動表示

■ ナビゲーション画面の表示★

障害物を感知すると自動的に表示されます。

① クリアランスソナー表示

バックガイドモニター・マルチテレインモニター★非表示時

表示されないように設定することができます。(→ P. 213)

② 割り込み表示

バックガイドモニター・マルチテレインモニター★表示時

画面上に簡略表示されます。
(右の画面はバックガイドモニターの場合です)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

距離表示の見方

通常表示	割り込み表示	障害物までのおおよその距離	
		フロントコーナー＆フロントセンサー	リヤコーナー＆バックセンサー
（点灯）	（遅い点滅）	フロントセンサー：100cm ～ 60cm	バックセンサー：150cm ～ 65cm
（点灯）	（点滅）	コーナーセンサー：50cm ～ 40cm フロントセンサー：60cm ～ 45cm	コーナーセンサー：55cm ～ 37.5cm バックセンサー：65cm ～ 50cm
（点灯）	（速い点滅）	コーナーセンサー：40cm ～ 30cm フロントセンサー：45cm ～ 30cm	コーナーセンサー：37.5cm ～ 25cm バックセンサー：50cm ～ 40cm
（点滅※1 または点灯※2）	（点灯）	30cm 以下	コーナーセンサー：25cm 以下 バックセンサー：40cm 以下

※1 マルチインフォメーションディスプレイ

※2 ナビゲーション画面★

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 25cm 以下
- ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 40cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

● ナビゲーションシステム装着車：→ P. 213

● ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 373

障害物を感知できる範囲

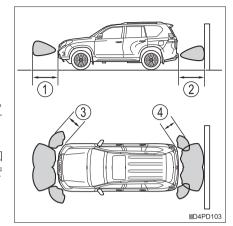
① 約 100cm

② 約 150cm

③ 約 50cm

④ 約 55cm

感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定（ナビゲーションシステム装着車のみ）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 画面外の「設定・編集」を押す

2 画面内の「運転支援」を選択する

3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切換え」を選択する

- フロントセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 65cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く）

●フロントセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近づきすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ます。
（→ P. 327）

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

⚠ 警告

■**センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●標識などのものによっては感知距離が短くなります。

●バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●センサーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

●けん引フックを取り付けたとき

●字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）※1

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）※2

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ アクティブ TRC（トラクションコントロール）※3

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ヒルスタートアシストコントロール★

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）★

→別冊「オフロード走行取扱書」

★：仕様により異なる装備やオプション装備

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 223

◆ 緊急ブレーキシグナル

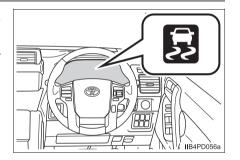
急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

※1 マルチテレインセレクト装着車のみ

※2 1GR-FE エンジン搭載車は、トランスファースイッチが H4 のとき

※3 1GR-FE エンジン搭載車で、トランスファースイッチが L4 のとき
ただし、マルチテレインセレクト装着車は、マルチテレインセレクトが ON のときのみ作動します。

TRC・VSC が作動しているとき

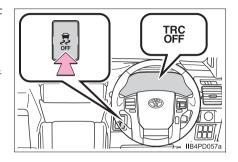
車両が横すべりしそうになったとき、前後輪が空転したときは、TRC・VSC の作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC　OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

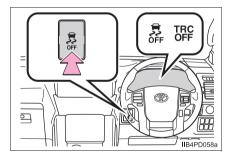
TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にVSC OFFスイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■TRC が長時間作動すると（1GR-FE エンジン搭載車）

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC が自動的に解除されます。この場合、TRC OFF 表示灯が点灯します。（通常走行は可能です）
しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば TRC が作動可能になります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■スリップ表示灯が点灯しているときは

TRC・VSC のいずれかのシステムに異常があります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**スリップ表示灯が点滅しているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 371）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

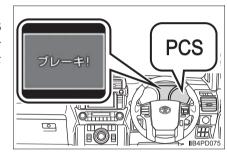
■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS警告灯が点滅、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

◆ プリクラッシュシートベルト （フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 29）
ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに警告灯・衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF 切りかえができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

◆ サスペンションコントロール★

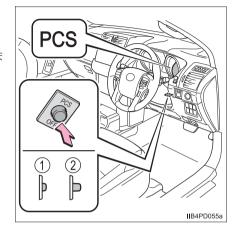
衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を最適に制御します。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

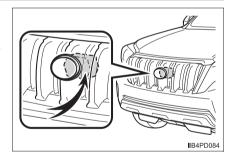
① プリクラッシュブレーキ OFF

② プリクラッシュブレーキ ON

OFF にすると PCS 警告灯が点灯します。

IIB4PD055a

レーダーセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

IIB4PD084

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件 1

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 30km/h 以上
・急ブレーキ時や車両がコントロール不能となったとき

●プリクラッシュシートベルトの作動条件 2

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・車速が約 30 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

●サスペンションコントロール★の作動条件

・自車速度が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

- ●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき
- ●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき
- ●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき
- ●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき
- ●凹凸のある路面を走行するとき
- ●路面上の金属物、段差または突起物があるとき
- ●車高が極端に変化しているとき
- ●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- ●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ **システムの作動しない環境**

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- ●きついカーブや起伏がある場所
- ●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- ●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- ●雨・霧・雪・砂嵐等の悪天候の状況
- ●VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態
- ●車両姿勢が極端に変化しているとき
- ●レーダーの軸がずれているとき

■ **システムの自動解除**

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ **システムに異常がある、またはシステムが一時的に使用できないときは**

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 323, 327）

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 225, 226）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●センサーとグリルは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルを改造したり塗装したりしない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

警告

■**システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
  - ・タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→ P. 279）
  - ・タイヤチェーンは、必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。（→ P. 233）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後２輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■リヤハイトコントロールエアサスペンション※装着車は

寒冷時は、リヤハイトコントロールエアサスペンションの作動に制限がかかる場合があります。

※ リヤハイトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
  - ・KDSS 非装着車：265/65R17 112S
  - ・KDSS 装着車：265/60R18 110H
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

- 必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。
  トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

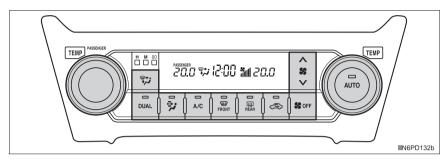
たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

IIN6PD132b

■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは を右に、下げるときは左にまわす

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすときは の“∧”を、減らすときは“∨”を押す

OFF スイッチを押すと、ファンがとまります。

■ **吹き出し口を切りかえる**

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

エアコン操作について

■ **オート設定で使用する**

1 AUTO スイッチを押す

2 温度を設定する

3 ファンをとめたいときは OFF スイッチを押す

■ **オートモードで使用中の手動操作について**

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ **運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）**

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

● DUAL スイッチを押す

● 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ **内気循環／外気導入を切りかえるには**

を押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。
内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ **フロントガラスの曇りを取るには**

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

■ **リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター**

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

REAR を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ **花粉除去機能を使用するには**

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

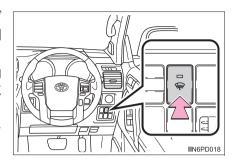
外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

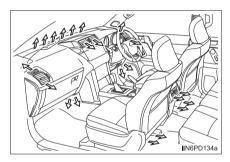
■ **フロントワイパーデアイサー★**

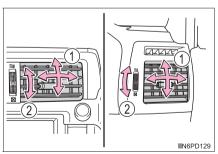
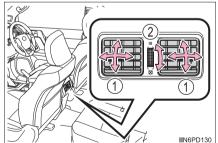
フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります

吹き出し口について

■ **吹き出し口の位置**

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ **風向きの調整と吹き出し口の開閉**

▶ フロント

▶ リヤ

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 286

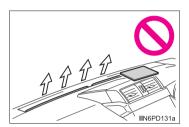
■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 373)

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。（フロントワイパーデアイサー装着車）

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

シートヒーター★

シートをあたためることができます。

警告

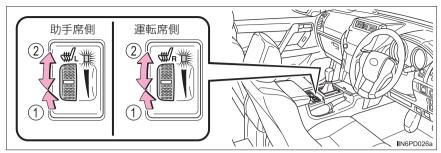
● 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

● 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

● シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

● バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

シートヒーター★

① ON

シートヒーターが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

② 温度を調整する

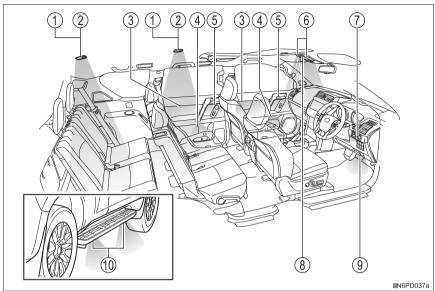
ダイヤルを上にまわすほど高温になります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON モードのとき

★：仕様により異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

① ルームランプ★（→ P. 245）

② 読書灯★（→ P. 245）

③ ドアトリム照明★※

④ ドアポケット照明★※

⑤ インサイドドアハンドル照明★※

⑥ フロントパーソナルランプ（→ P. 244）

⑦ エンジンスイッチ照明

⑧ センターコンソールイルミネーション★

⑨ 足元照明★※

⑩ サイドステップ照明★

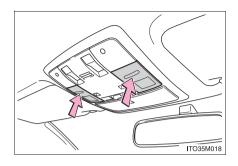
※ ラウンジ照明調光スイッチ（→ P. 246）で、明るさを調整できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルランプ

■ 独立スイッチでの操作

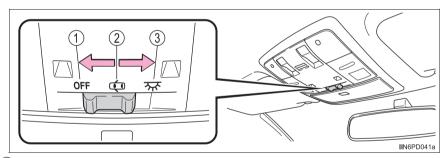
ランプを点灯・消灯する

ITO35M018

■ 連動スイッチでの操作

フロントパーソナルランプの連動スイッチを操作すると、ルームランプ※1 または読書灯※2 も連動して作動します。

※1 ルームランプのスイッチがドアポジションのときに連動します。(→ P. 245)

※2 読書灯のスイッチが OFF のときに連動します。(→ P. 245)

IIN6PD041a

① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）を ON にする

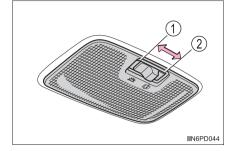
ドアを開けると点灯し、ドアを閉めると消灯します。

③ ランプを点灯する

ルームランプ★

① ランプを点灯する

② ドアポジション（ドア連動）をON にする

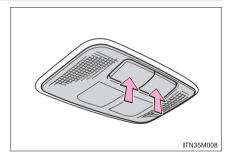
フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動します。
(→ P. 244)

読書灯★

押すたびにスイッチの ON ／ OFF が切りかわります。

・ON ：
ランプを点灯する

・OFF：
フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動する
(→ P. 244)

連動スイッチによって点灯しているときは、読書灯のスイッチで消灯することはできません。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ラウンジ照明調光スイッチ★

次の照明の明るさを調整することができます。

● インサイドドアハンドル照明

● ドアトリム照明

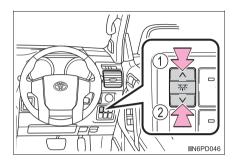
● ドアポケット照明

● 足元照明

① 明るくする

② 暗くする

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※ フロントパーソナルランプとルームランプの両方共に、スイッチの位置がドアポジション（　）のときに作動します。

■自動消灯機能

エンジンスイッチが OFF の場合、次の照明が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

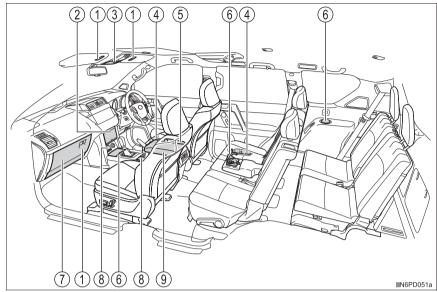
- フロントパーソナルランプ
- ルームランプ★
- ドアトリム照明★
- ドアポケット照明★
- インサイドドアハンドル照明★
- 足元照明★

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 377)

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

収納装備一覧

① カードホルダー★（→ P. 256）

② センターボックス★（→ P. 254）

③ オーバーヘッドコンソールボックス（後席確認ミラー付き）（→ P. 254）

④ ボトルホルダー（→ P. 253）

⑤ ドアポケット（→ P. 253）

⑥ カップホルダー（→ P. 252）

⑦ グローブボックス（→ P. 249）

⑧ オープントレイ★（→ P. 255）

⑨ コンソールボックス（エアコン送風機能付き）★（→ P. 250）／クールボックス★（→ P. 261）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

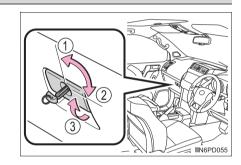
警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

① メカニカルキーで解錠

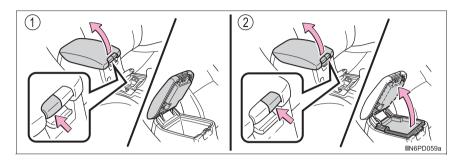
② メカニカルキーで施錠

③ 開ける（レバーを引き上げる）

知識

- 車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、カードホルダーがあります。（→ P. 256）

コンソールボックス（エアコン送風機能付き）★

コンソールボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプがあります。

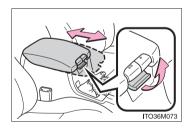
クールボックスについては、P. 261 を参照してください。

左右いずれかのノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

① 中間トレイごと開くとき

② フタのみを開くとき

中間トレイは持ち上げて開くことができます。

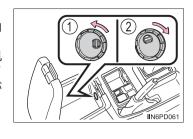
知識

●コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは、レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。

● (→ P. 236) が ON のとき、エアコンの冷風をコンソールボックス内へ送風することができます。また、送風開閉ダイヤルで送風機能の ON ／ OFF 切りかえが可能です。(エアコン送風機能)

① 開ける

② 閉じる

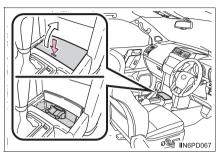
●入れるものとして適さないもの

・ フタがされていない容器に入ったもの
・ 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
・ 取扱書・車検証・電子機器・CD など

注意

中間トレイを使用するときは、トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげとなるおそれがあります。

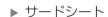
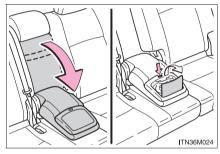
カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット

■ カップホルダー★

▶ フロントシート

フタの手前側を押して開ける

▶ セカンドシート（5人乗り車）

セカンドシートアームレストを引き出す

▶ セカンドシート（7人乗り車）

セカンドシートアームレストを引き出して、ボタンを押す

▶ サードシート

ITN36M026

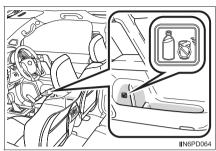
★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロントシート

▶ セカンドシート

IIN6PD064

ITN36M016

知識

■カップホルダーの仕切りの取り外し

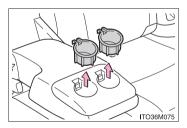
▶ フロントシート

ベース部分を持ってホルダーを引き上げます。

ITN36M028

▶ セカンドシート（5人乗り車）

ホルダーを引き上げます。

ITO36M075

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

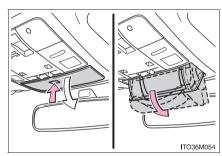
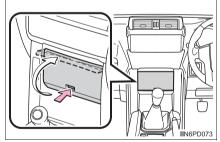
⚠ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

⚠ 注意

- カップホルダーの破損を防ぐために、カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- カップホルダーの破損を防ぐために、セカンドシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。（7人乗り車のみ）
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ･ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソールボックス

ボタンを押して、いっぱいまで開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ センターボックス★

フタの下側部分を押して開ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■後席確認ミラー（オーバーヘッドコンソールボックスのフタ側面）

→ P. 264

警告

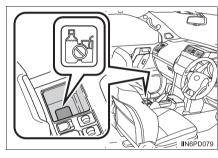
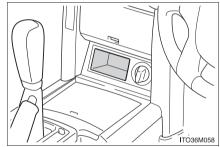
オーバーヘッドコンソールボックスに 200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

▶ フロントコンソール前ポケット

IIN6PD079

▶ インストルメントパネルポケット（2TR-FE エンジン搭載車）

ITO36M058

▶ インストルメントパネルポケット（マルチテレインセレクト装着車）

IIN6PD076

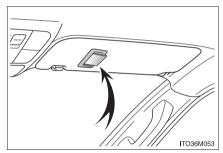
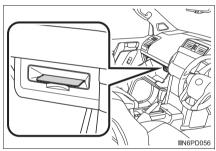
警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

フロントコンソール前ポケットには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

▶ サンバイザー

▶ グローブボックス内★

使用するときは、レバーを引き上げてグローブボックスを開きます。（→ P. 249）

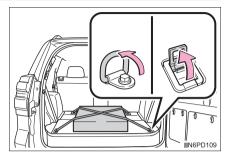
★：仕様により異なる装備やオプション装備

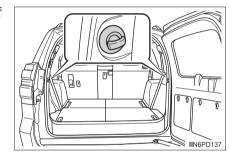
ラゲージルーム内装備

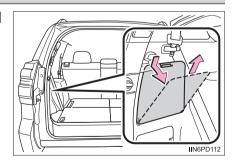
デッキフック★

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

デッキフックの装着位置・形状は車種により異なります。

ネットフック

積荷ネットなどをかけるフックです。

小物入れ★

ツメを押しながらフタを手前に開き、取りはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

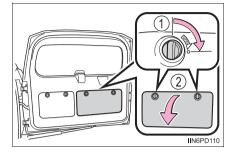
三角表示板等収納スペース

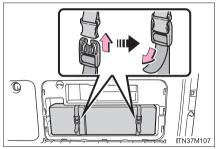
市販の三角表示板などを収納することができます。

1 カバーを開く

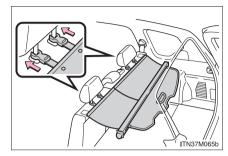
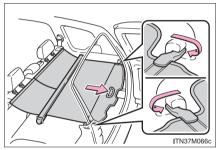
① ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずす

② カバーを手前開く

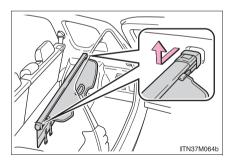
IIN6PD110

2 三角表示板を収納し、ベルトで固定する

ITN37M107

トノカバー★

■ トノカバーの取り付け

1 サブカバーのクリップをセカンドシートヘッドレストに取り付ける

2 カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける

■ トノカバーの取りはずし

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

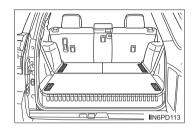
知識

■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ラゲージレールについて★

ラゲージルームにあるレールは、販売店オプションのアクセサリー用品取り付け用です。

アクセサリー用品の購入や取り扱い方法などについては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

●各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(トノカバー装着車)

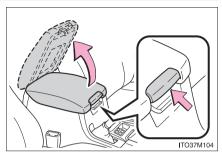
●トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(トノカバー装着車)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

その他の室内装備

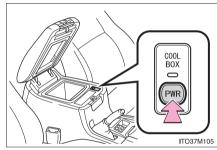
クールボックス★

1 ノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

ITO37M104

2 ON ／ OFF を切りかえる

クールボックスが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

ITO37M105

知識

■作動条件

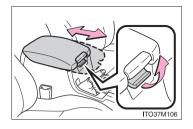
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
（ただし、エンジン回転中でないと保冷機能は働きません）

■クールボックスを ON にすると

- 連動してエアコンが作動します。なお、エアコンを停止した状態でクールボックスを使用することはできません。
- エアコンの冷房性能がわずかに低下します。不要の際は、クールボックスを OFF にしてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■**クールボックスのフタをアームレストとして使うときは**

レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。

■**作動表示灯が点滅したときは**

次の場合、クールボックスの作動表示灯が点滅します。このときは、クールボックスを使用することができません。

●クールボックスを ON にしたあとで A/C （→ P. 236）を OFF にしたとき

　その場合は A/C を ON にしてください。

●外気温が約 0 ℃以下のとき

上記の処置を行っても作動表示灯が点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、クールボックスのスイッチと A/C を OFF にして、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■**クールボックスに入れるものとして適さないもの**

●フタがされていない容器に入ったもの

●割れもの・腐るもの・臭いが強いもの

●取扱書・車検証・電子機器・CD など

■**クールボックス内を清掃するときは**

水を少し含ませた布などで、汚れをふき取ってください。ボックス内に直接水をかけると、故障の原因になります。

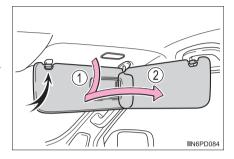
クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

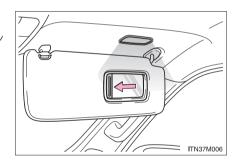
サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

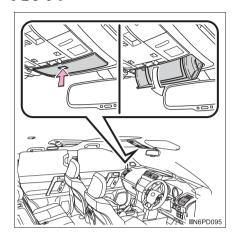
カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

後席確認ミラー

車室内後方の状態を確認することができます。

ボタンを押して開ける

知識

後席確認ミラーをいっぱいまで引き出すと、サングラスなどの小物入れとして使用することができます。(→ P. 255)

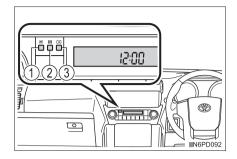
時計

① “時”を調整する

② “分”を調整する

③ “分”を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント★

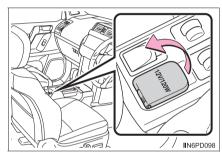
次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

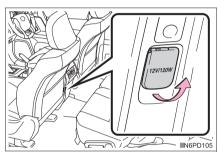
アクセサリーソケット：
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品※

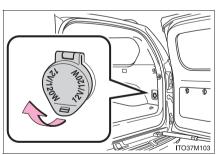
アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

※ 電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリーソケットの合計で、最大消費電力が 120W 以下になるようにしてください。

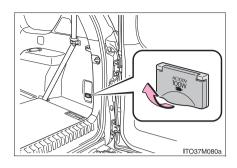
■ アクセサリーソケット

▶ フロント

フタの前側を引き上げて開ける

▶ リヤ

フタの下側を引き上げて開ける

▶ ラゲージルーム★

フタの下側を引き上げて開ける

■ アクセサリーコンセント

フタの下側を引き上げて開ける

知識

■使用条件

▶ アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 接続端子★と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■**ショートや故障を防ぐために**

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■**ヒューズが切れるのを防ぐために**

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

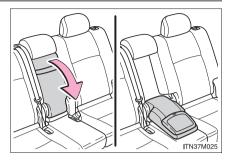
■**正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）**

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

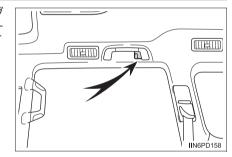
アームレスト（セカンドシート）

手前に倒して使用します。

アームレストは、車種により形状が異なります。

⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

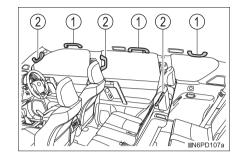
リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。

⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

アシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、アシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（回転式）
② アシストグリップ（固定式）

⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

●リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車は、ノズルの先端をエアサスペンション付近に近付けすぎないでください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

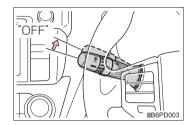
●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体·部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙·油煙·粉じん·鉄粉·化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや、やわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 32)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

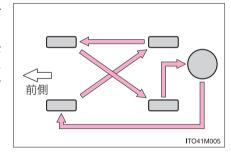
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

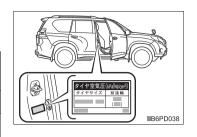
図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]	
	前輪	後輪
265/65R17 112S	220(2.2)	220(2.2)
265/60R18 110H	220(2.2)	220(2.2)

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
  - ・KDSS 非装着車：265/65R17 112S
  - ・KDSS 装着車：265/60R18 110H
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

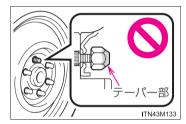
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

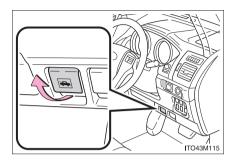
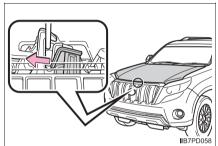
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを左に引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

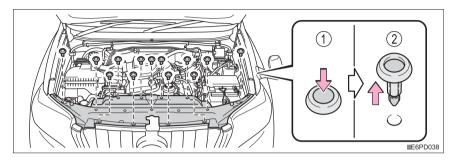
●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

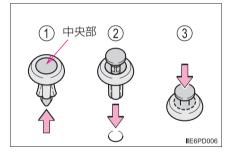
エンジンルームカバー

メンテナンス時など、必要に応じて取りはずすことができます。

エンジンルームカバーの取りはずし方

① 中央部分を押す ② 引き抜く

クリップの取り付け方

① クリップ中央部分を押し上げる
② 挿し込む
③ クリップ中央部分を押す

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

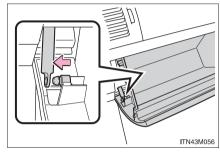
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

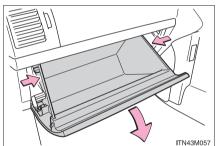
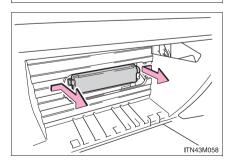
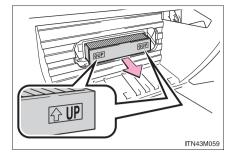
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

ITN43M056

3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

ITN43M057

4 フィルターカバーを取りはずす

ITN43M058

5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20000km [15000km ※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

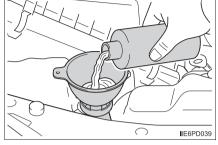
■エアコンを使用するときの注意

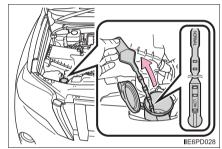
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

ウォッシャー液の補給

次のような場合は、ウォッシャー液を補給してください。

- ワイパースイッチを操作してもウォッシャー液が出ないとき
- マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき（寒冷地仕様車のみ）

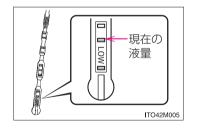
IIE6PD039

- ゲージでの点検の際、液面が LOW の位置に近付いていたとき（ゲージ装着車のみ）

IIE6PD028

知識

■ゲージ★の使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

ITO42M005

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

キーの電池交換

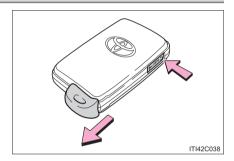
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

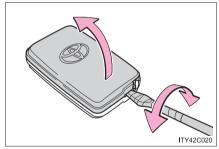
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR1632

電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く

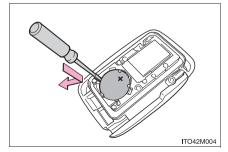
ITI42C038

2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ITY42C020

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。

ITO42M004

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

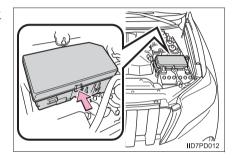
ヒューズの点検・交換

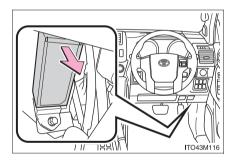
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

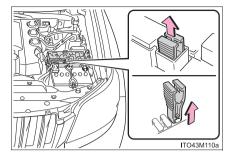
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

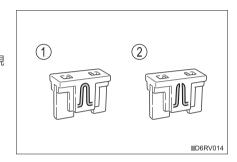
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元

カバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあと

- ●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 295）
- ●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

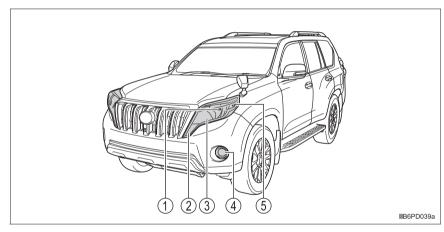
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

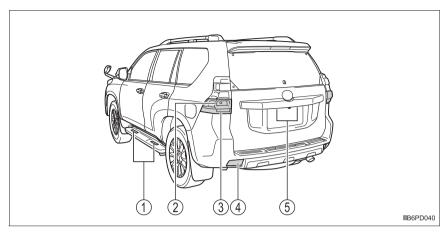
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 372）

バルブ位置

■ フロント

① ヘッドランプハイビーム
② 車幅灯※
③ ヘッドランプロービーム※
④ フロントフォグランプ
⑤ フロント方向指示／非常点滅灯

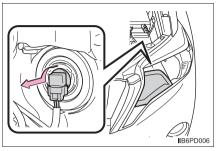
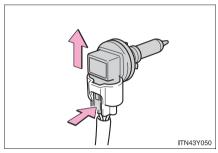
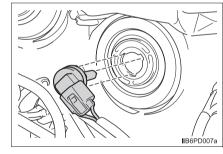
※ ハロゲンヘッドランプ装着車

■ リヤ

① サイドステップ照明★
② リヤ方向指示／非常点滅灯
③ 後退灯
④ リヤフォグランプ★
⑤ 番号灯

★：仕様により異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす

IIB6PD006

2 電球を取りはずす

ITN43Y050

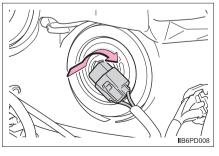
3 電球を交換し、ソケットを取り付ける

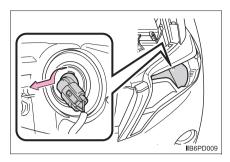
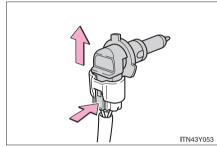
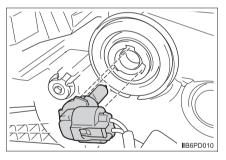
取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

IIB6PD007a

4 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

IIB6PD008

■ ヘッドランプハイビーム

1 ソケットを取りはずす

IIB6PD009

2 電球を取りはずす

ITN43Y053

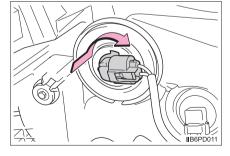
3 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

IIB6PD010

4 ソケットをまわして固定する

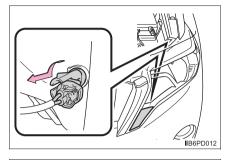
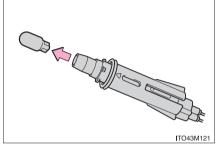
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

IIB6PD011

■ 車幅灯(ハロゲンヘッドランプ装着車)

1 ソケットを取りはずす

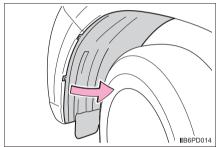
運転席側と助手席側でソケットの形状が異なりますが、取りはずし方は同様です。

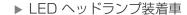
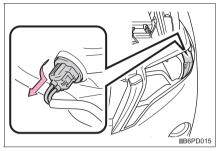
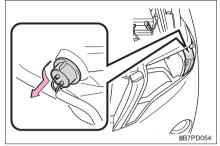
2 電球を取りはずす

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示／非常点滅灯

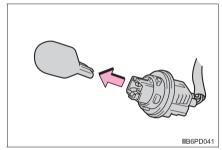
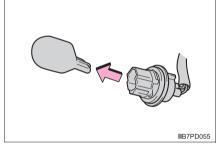
1 ボルト（3 本）を取りはずす

ハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げます。

2 フェンダーライナーをめくる

3 ソケットを取りはずす

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

▶ LED ヘッドランプ装着車

4 電球を取りはずす

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車　　▶ LED ヘッドランプ装着車

5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

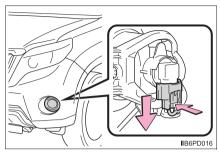
■ フロントフォグランプ

1 ボルト（3 本）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる
（→ P. 300）

2 コネクターを取りはずす

IIB6PD016

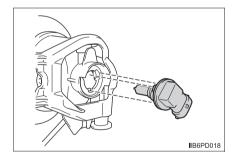
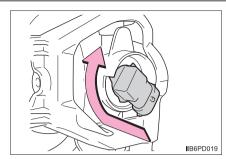
3 電球を取りはずす

IIB6PD017

4 電球を交換し、ソケットを取り付ける

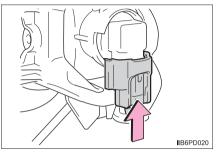
取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

IIB6PD018

5 ソケットをまわして固定する

IIB6PD019

6 コネクターを取り付ける

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

IIB6PD020

7 フェンダーライナーを取り付ける時は、1 と逆の手順で取り付ける

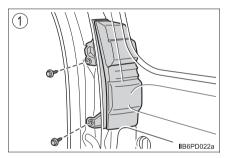
■ リヤ方向指示／非常点滅灯・後退灯

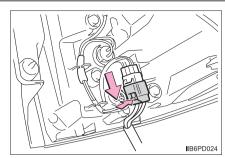
1 バックドアを開ける

▶ 助手席側

ボルト（2 本）をはずしてランプ本体をはずす

▶ 運転席側

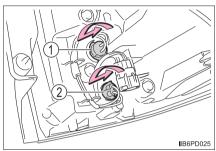
① ボルト（2 本）をはずす

② バックドアを半開にして、車両本体とバックドアとのすき間を広げた状態にし、ランプ本体をはずす

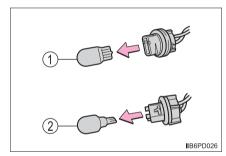
2 コネクターをはずす

3 ソケットを取りはずす

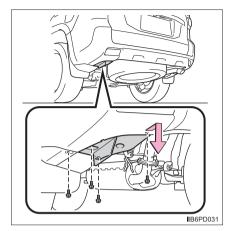
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

4 電球を取りはずす

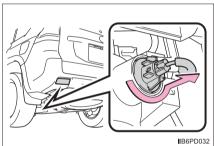
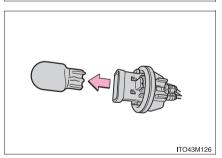
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **リヤフォグランプ★**

1 ボルト（4 本）をはずし、アンダーカバーを取りはずす

2 ソケットを取りはずす

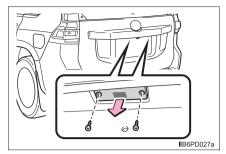
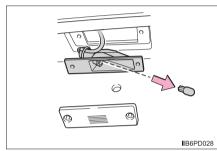
3 電球を取りはずす

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

1 ネジ(2本)をはずしてカバーを取りはずす

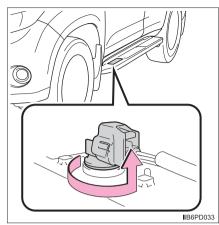
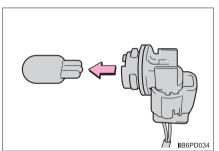
2 電球を取りはずす

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイドステップ照明★

1 ソケットを取りはずす

IIB6PD033

2 電球を取りはずす

IIB6PD034

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次のランプを交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯／ LED デイライト（LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■番号灯のカバーを取り付けるときは

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）、車幅灯／ LED デイライト（LED ヘッドランプ装着車）、サイド方向指示／非常点滅灯、制動灯、尾灯、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
  やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

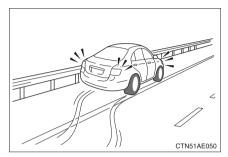
故障したときは

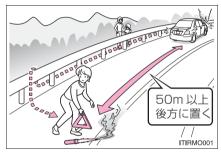
故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→ P. 313）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 314）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

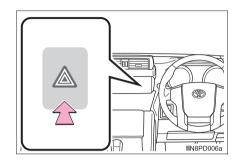
ITIRMO004

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

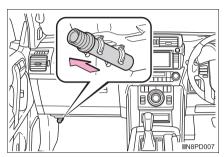
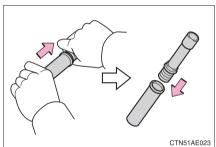
スイッチを押す

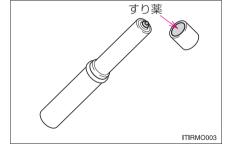
すべての方向指示器が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■**発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1. ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

   ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

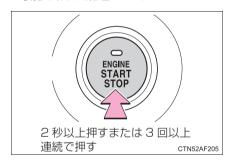
2. シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3. 減速後、車を安全な道路脇に停める
4. エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3. ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
4. エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

2 秒以上押すまたは 3 回以上連続で押す

5. 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

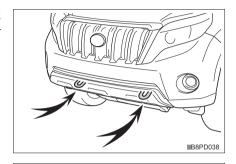
ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

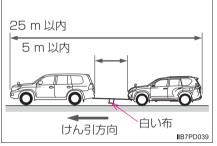
けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方(30 cm×30 cm)以上

3 けん引される車両のエンジンをかける

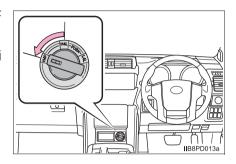
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

4 センターデフロック作動表示灯が点灯していないことを確認する

点灯している場合は、次の操作を行ってセンターデフロック状態を解除してください。

2TR-FE エンジン搭載車：

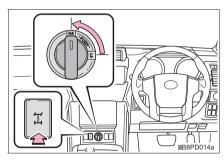
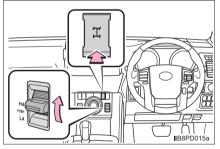
トランスファースイッチを H4F にします。※

センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

1GR-FE エンジン搭載車：

トランスファースイッチを H4 かつセンターデフロックスイッチを OFF にします。※

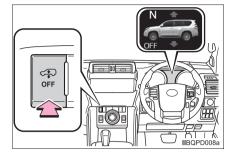
センターデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

▶ マルチテレインセレクト非装着車

▶ マルチテレインセレクト装着車

※ トランスファースイッチの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

5 車高モードをＮ（標準）モードにし、車高制御を禁止する※（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車のみ）

車高制御 OFF スイッチを押すと、ハイトコントロール OFF モードになり、現在の車高モードで固定されます。

※ リヤハイトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

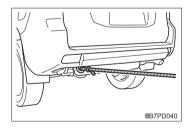
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが車が動かない
● 異常な音がする

知識

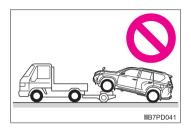
■他車をけん引する

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの使用目的

フロント側のけん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告

■**車両を運搬するときは**

●必ず４輪接地または､４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

●駆動系内部の異常があると思われるとき、および次のときは、必ず車両積載車などにより４輪とも持ち上げて運搬してください。

・センターデフロック作動表示灯が消灯せず、センターデフロックが OFF（解除）になったことが確認できないとき
・センターデフロック状態（ON のとき）で故障したとき

●リヤハイトコントロールエアサスペンション※装着車は､４輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高モードを N（標準）モードにし、車高制御を禁止にした状態で行ってください。オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ リヤハイトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や､間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり､思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり､ハンドルが通常より重くなったりします。

注意

■**車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

上記の速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

⚠注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
[− +]	**充電警告灯** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS ／マルチテレイン ABS ※2 の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯 ・パワーステアリングの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC ・TRC ／アクティブ TRC ※2 ・ダウンヒルアシストコントロールシステム※2★ ・ヒルスタートアシストコントロール※2★ ・クロールコントロール※2★ 上記のシステムの作動時は点滅します。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
KDSS	**KDSS 警告灯※2★** KDSS の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
PCS （点滅）	**PCS 警告灯★（点滅したままのとき）** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→ P. 223） ・プリクラッシュブレーキをOFF にすると点灯します。（→ P. 224） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。（→ P. 330） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー※3） いずれかのドアガラス、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない **→ 全ドア・バックドアガラスを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 13 L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※4） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 327**

※1 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
→ P. 328

※2 システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※3 **半ドア走行時警告ブザー：**
→ P. 328

※4 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは

別冊「オフロード走行取扱書」を参照し、それぞれの対処方法に従って処置してください 。
ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法を行っても、L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WD システムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードの切りかえができなくなったり、センターデフロック・リヤデフロックの切りかえができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

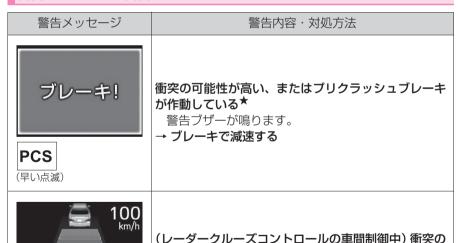
① マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ! PCS (早い点滅)	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する**
100 km/h (点滅)	**(レーダークルーズコントロールの車間制御中)衝突の危険性★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する**

★:仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。 → **開いているドアを閉める**
	バックドアガラスが確実に閉まっていない バックドアガラスが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。 → **バックドアガラスを閉める**
ソナー システム チェック	**クリアランスソナーの異常★** すべてのソナーが点滅して表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ソナー汚れ	**クリアランスソナーのセンサー部分の汚れ、氷などの付着★** 警告ブザーが鳴ります。 → **汚れおよび氷などを取り除く**
パーキングブレーキを 解除して下さい	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。 → **パーキングブレーキを解除する**

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容・対処方法
レーダー汚れ 清掃必要	**レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着★** 警告ブザーが鳴ります。 **→汚れおよび氷などを取り除く**
クルーズ 現在使用できません	**レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可★** 警告ブザーが鳴ります。 **→システムが悪天候と判断したため、使用できません。**
クルーズシステム チェック	**クルーズコントロールシステムの異常★** **レーダークルーズコントロールシステムの異常★** ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ステアリングロック システムチェック	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
PCSシステム チェック PCS （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容・対処方法
AT油温異常 (警告灯)	**オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くなった** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待つしばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。**
トランスミッション システムチェック (警告灯)	**オートマチックトランスミッションの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ムーンルーフが 開いています (警告灯) (点滅)	**ムーンルーフが確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチをOFFにして運転席ドアを開けた★** 警告ブザーが鳴ります。 → **ムーンルーフを閉める**
ヘッドランプ システムチェック (警告灯)	**ヘッドランプオートレベリングの異常★** **LEDヘッドランプシステムの異常★** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ウォッシャー液不足 (警告灯) (点滅)	**ウォッシャー液が残りわずか★** → **ウォッシャー液を補充する**
PCS現在使用 できません PCS	**PCS(プリクラッシュセーフティシステム)が現在機能していない★** ・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。

★:仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容・対処方法
エアサスペンション システムチェック (警告マーク)	**リヤハイトコントロールエアサスペンションの異常★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
CRAWL操作時は L4に切替え、 DまたはRレンジに 入れて下さい	**クロールコントロールの使用不可★** **→ トランスファースイッチを L4 に切替え、シフトレバーを D か R にする** **クロールコントロールについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
CRAWL操作時は 作動条件の確認を して下さい	**クロールコントロールの使用不可★** **→ クロールコントロールの作動条件に従って使用する** **クロールコントロールについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
CRAWLが 解除されました	**クロールコントロールの使用中、機能が解除された★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ クロールコントロールの作動条件に従って使用する** **クロールコントロールについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
	4WDシステム異常のおそれ 点滅します。 **→ 4WD システムについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
	リヤデフロック異常のおそれ 点滅します。 **→ リヤデフロックについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容・対処方法
MULTI-TERRAIN SELECT中のため 操作できません	**マルチテレインセレクトの使用中、VSC OFFスイッチを押した、またはセカンドスタートモードに切りかえようとした★** → **マルチテレインセレクトの使用中は、VSC を OFF にしたり、セカンドスタートモードに切りかえたりすることはできません。 マルチテレインセレクトについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
MULTI-TERRAIN SELECTが解除 されました	**マルチテレインセレクトの使用中、機能が解除された★** 警告ブザーが鳴ります。 → **マルチテレインセレクトの作動条件に従って使用する マルチテレインセレクトについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。**
CRAWL ON中のため 操作できません	**クロールコントロール作動中にマルチテレインセレクトをONにしたとき★** → **クロールコントロールを OFF にしてから、マルチテレインセレクトを ON にしてください。**
L4に 切替えて下さい	**トランスファースイッチがH4でマルチテレインセレクトをONにしたとき★** → **トランスファースイッチを L4 に切りかえてください。**
車を停めてNレンジに 入れて下さい	**シフトレバーがN以外でトランスファースイッチをH4からL4に切りかえようとしたとき★** → **シフトレバーを N にしてください。**
MULTI-TERRAIN SELECTは利用 できません	**VSC・4WDシステム・マルチテレインセレクト・EFIシステムのいずれかに異常があるとき★** → **トヨタ販売店にご相談ください。**

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常に低速で走行しているとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルペダルが踏まれたとき

■車間制御モード中の接近警報について（レーダークルーズコントロール装着車）

→ P. 201

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	3 回	キーが見つかりません （点滅）	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトレバーがPの状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → エンジンスイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす
1 回	5 秒間吹鳴	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい （交互に表示） （点滅）	エンジンスイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → エンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが見つかりません （点滅）	・電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした ・正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアを開いた → シフトレバーをPにする
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → ・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる
1回	5秒間吹鳴	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
			車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1回	なし	ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れて下さい （点滅）	メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった → ブレーキペダルを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる
			エンジンスイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが2回連続で続いた → ブレーキペダルを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている → シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい (点滅)	シフトレバーがP以外でエンジンスイッチのモードを OFF にしようとした → エンジンスイッチのモードを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押す
なし	なし	バッテリー保護の為自動電源OFFしました	自動電源OFF機能が作動した → 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持してバッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→ P. 290)
1 回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい (点滅)	エンジンスイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してから、エンジンを始動せずにエンジンスイッチをアクセサリーモードに2回以上した → 始動時はブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときの始動の方法 (→P. 355) でエンジンスイッチに電子キーをふれた → ブザーが鳴ってから 10 秒以内にエンジンスイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ステアリングロック 未解除	**エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった** **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す**

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は、P. 279 を参照してください）

警告

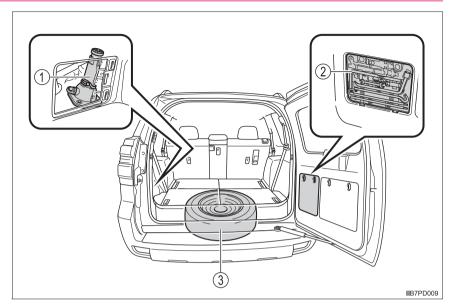
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 車高制御を禁止する※
（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 313）

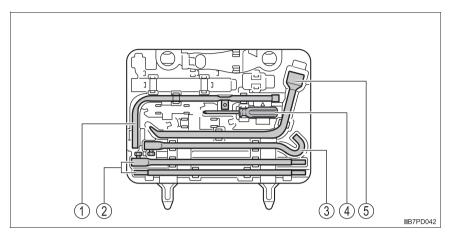
※ 車高制御の禁止のしかたについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

工具箱・ジャッキ・スペアタイヤの位置

① ジャッキ

② 工具（工具箱）

③ スペアタイヤ

■ 工具

工具箱の中に収納されています。（工具箱の取り出し方：→ P. 341）

① ジャッキハンドル
② ジャッキハンドル延長バー
③ ジャッキハンドルバー
④ ドライバー（→ P. 350）
⑤ ホイールナットレンチ

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●車高制御が禁止の状態で、エンジンが停止している※（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車）
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

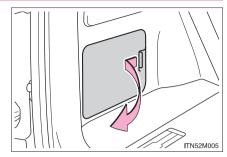
※ 操作方法については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、搭載されているドライバーでネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキの取り出し方

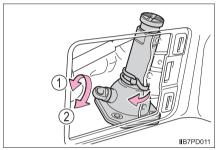
1 ツメを押しながらフタを手前に引き、取りはずす

ITN52M005

2 固定バンドをはずし、ジャッキをゆるめて取りはずす

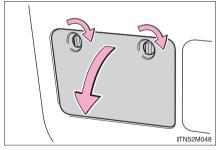
① ゆるむ

② 締まる

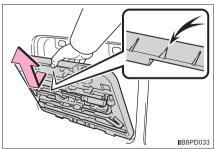
使用後はもとの位置にもどします。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。

IIB7PD011

工具箱の取り出し方

1 ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずし、カバーを手前に開く

ITN52M048

2 工具箱を取りはずす

マークの付いている部分をつかんで、持ち上げます。

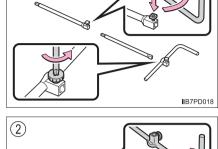
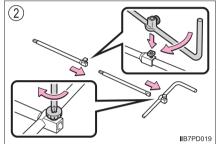
IIB8PD033

スペアタイヤの取り出し方

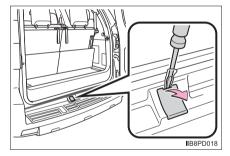
1 ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バーを取り出し、図のように組み付けます。

① ボルト（1 本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

② ジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長バーを組み付け、ボルト（1 本）・ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

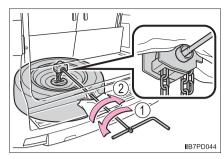
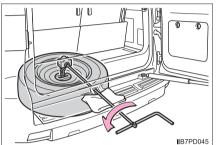
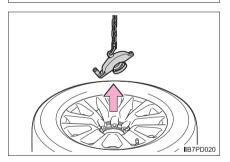
ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

2 マイナスドライバーを使用して、リヤバンパーのフタを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 組み付けたジャッキハンドルを図のように挿し込む

① 下がる

② 上がる

当て布をジャッキハンドルの下にしてリヤバンパーを保護してください。

4 ジャッキハンドルをまわして、スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる

5 スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

IIB7PD043a

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

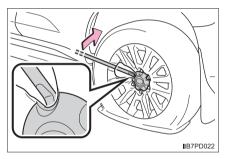
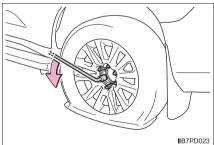
2 センターオーナメントをはずす

ホイールナットレンチの後端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

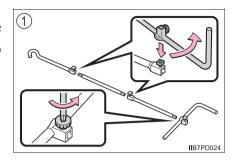
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

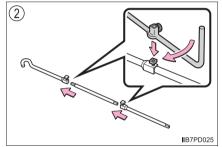
IIB7PD022

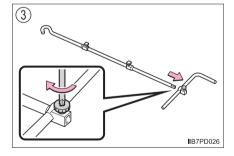
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

IIB7PD023

4 ジャッキハンドルを組み付ける

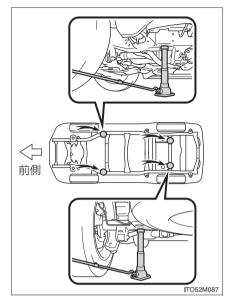
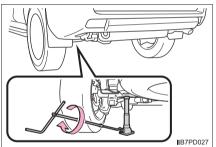
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し（→ P. 339）、図のように組み付けます。

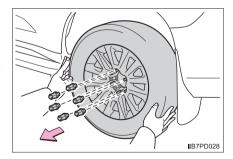
① ボルト（2 本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

② ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2 本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。

③ ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

ジャッキセット位置：

フロント	シャシーフレームサイドレール下
リヤ	リヤアクスルハウジング下

6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

警告

■**タイヤ交換について**

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

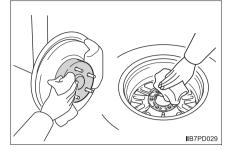
・スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

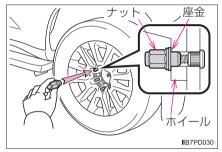
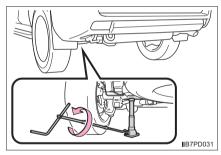
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 112N・m（1140kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
（→ P. 281）

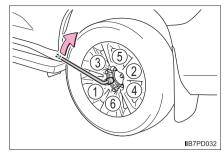
タイヤの取り付け

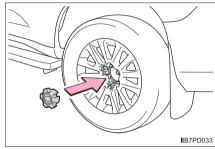
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわします。

3 車体を下げる

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
112 N・m (1140 kgf・cm)

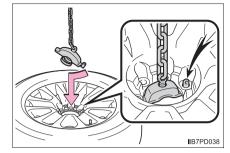
IIB7PD032

5 センターオーナメントを取り付ける

IIB7PD033

6 パンクしたタイヤを格納し、工具・ジャッキをもとどおりに収納する（→ P. 350）

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

1 タイヤの外側が上になるように地面に置き、アンカープレートを取り付ける

アンカープレートのツメをホイールの穴にはめます。

IIB7PD038

2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる（→ P. 343）

KDSS ※ 装着車は、アンカープレートにセットしたタイヤを車両後方に引きながら、ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げてください。
また、タイヤを上げたあと、格納したタイヤがサスペンションの部品に干渉していないことを目視で確認してください。

※ KDSS については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

3 工具・ジャッキを収納する（→ P. 341, 341）

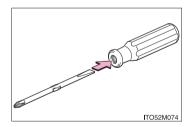
知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→ P. 371）

■ ドライバーの使い方

軸部分を引き抜いて挿し込み方向をかえることにより、プラス・マイナス両方のドライバーとして使用できます。

ITO52M074

警告

■**工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**パンクしたタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- スペアタイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 162）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 162）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 61）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 357）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。
（→ P. 353）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 357）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

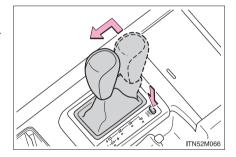
1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んで、エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

1. パーキングブレーキをかける
2. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルを踏む
4. シフトロック解除ボタンを押す

   ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 108）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

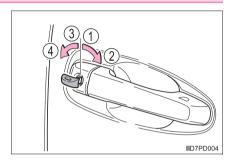
メカニカルキー（→ P. 86）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

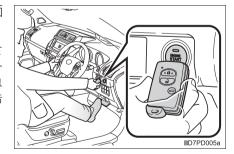
③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 373）

エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがエンジンスイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 290)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。
なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠したときの作動は、車両の設定により異なります。(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

■エンジンスイッチのモード切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 163)

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルすることができます。
電子キーが正常に働かないときは、スマートエントリー＆スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。
(カスタマイズ一覧：→ P. 373)

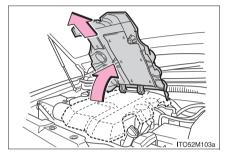
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける（→ P. 282）

2 エンジン上部のカバーをはずす（1GR-FE エンジン搭載車のみ）

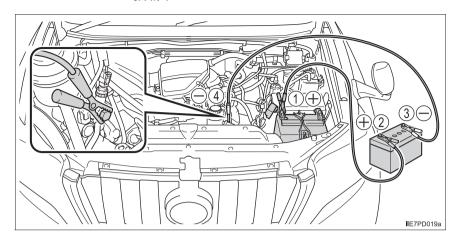
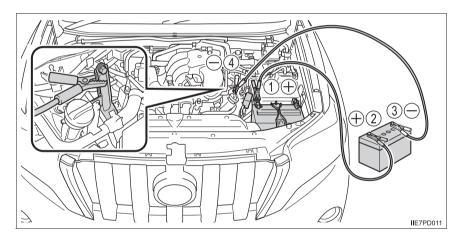
先端を持ち上げて固定ピンをはずし、手前に引いてカバーを取りはずします。

3 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（次ページの図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2TR-FE エンジン搭載車

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

7 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー＋ 端子のカバーをもとにもどしてください。

8 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける（1GR-FE エンジン搭載車のみ）

取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオ（装着車のみ）の電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■**バッテリーあがり時や取りはずし時は**

●バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→ P. 63)

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**エンジン上部のカバーの損傷を防ぐために（1GR-FE エンジン搭載車のみ）**

次のことを必ずお守りください。

- カバーを取りはずすときは、必ず先端を持ち上げて固定ピンをはずしてから、カバー本体を手前に引いてください。
- カバーを取り付けるときは、取り付け部上面を強い力で押さえたり、たたいたりしないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

● メーター内の水温計の針（→ P. 70）がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）

● エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

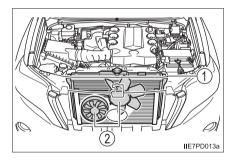
蒸気が出ていない場合：

注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

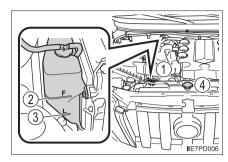
② ファン

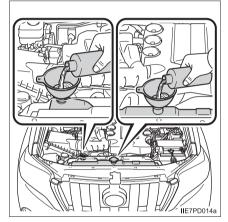
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “F”（上限）

③ “L”（下限）

④ ラジエーターキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 284）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ボンネット（→ P. 282）、エンジンルームカバー（→ P. 284）の注意事項も併せてお読みください。

●エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. タイヤ前後の土や雪を取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

スタックからの脱出方法について

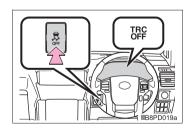
別冊「オフロード走行取扱書」では、センターデフロックやリヤデフロック（装着車のみ）など、4WD 車の特殊機能を使用したスタック脱出の方法を説明しています。状況によっては、それらの機能を使用すると脱出が容易になる場合がありますので、併せて参照してください。

知識

■**脱出しにくいとき**

TRC ／アクティブ TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC ／アクティブ TRC または VSC を停止してください。(→ P. 219)

を押してTRCをOFFにしてください。

IIB8PD019a

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	87

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">指定銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値※1）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td>トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2
—API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20
—API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20</td><td>2TR-FE</td><td>5.0</td><td>5.7</td></tr>
<tr><td>トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30
—API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30
—API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30</td><td>1GR-FE</td><td>5.7</td><td>6.1</td></tr>
</table>

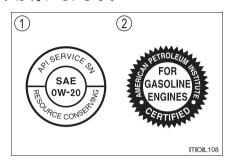
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

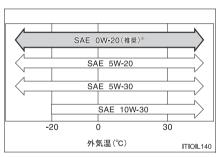
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% −12 ℃ 濃度 50% −35 ℃	2TR-FE	8.1
	1GR-FE	11.0

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	2TR-FE	9.9
	1GR-FE	10.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	項目		容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	フロント		1.4
	リヤ	ノーマル	2.7
		デフロック付き	2.65

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.4

パワーステアリング

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	2TR-FE	0.7
	1GR-FE	1.0

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※1	2TR-FE エンジン	106
	1GR-FE エンジン	101

※1 エンジン回転時に490 N (50 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200N（20kgf）のときのノッチ数 ※2	5 ～ 7

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	4.75

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
265/65R17 112S	17 × 7 1/2J	220（2.2）	220（2.2）
265/60R18 110H	18 × 7 1/2J	220（2.2）	220（2.2）

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H11）★	 60 55
	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	車幅灯（LED ヘッドランプ非装着車）	5
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）	19
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	番号灯	5
	サイドステップ照明★	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ★	8
	読書灯★	5
	バニティミラーランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRJ150W	2TR-FE（2.7L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）
GRJ150W	1GR-FE（4.0L ガソリン）	
GRJ151W		

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはメーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作（装着車のみ）、トヨタ販売店で行うことが可能です。（設定可能な機能は、それぞれの方法で一部異なります）

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 を押し続けて、カスタマイズモード画面を表示する（→ P. 73）

2 ENTER を上下に操作して設定する項目を表示させ、ENTER を押す

設定変更画面が表示されます。
現在の設定値は枠付きで表示されます。

3 ENTER を上下に操作して設定値を変更する

機能を有効にする場合は「する」を、無効にする場合は「しない」（または「OFF」など）を選択します。
その他の項目では、目的の数値・調整レベルなどを選択します。

4 ENTER を押す

設定変更中画面が表示されます。
カスタマイズモード画面にもどると、設定内容が確定します。

5 を押して、もとの画面にもどす

■ **ナビゲーションシステムで設定するには**

1 「設定・編集」スイッチを押す

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作業内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「＋」または「－」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

車両カスタマイズ設定一覧

変更する機能により、トヨタ販売店でのみ変更が可能か、メーターカスタマイズ機能などでも可能かどうかが異なります。次の表を参考に、①～ ④の該当する方法で設定変更を行ってください。

① ナビゲーションシステム※装着車：ナビゲーションシステムによる設定

② ナビゲーションシステム※装着車：メーターカスタマイズ機能による設定

③ ナビゲーションシステム※非装着車：メーターカスタマイズ機能による設定

④ トヨタ販売店で設定可能

※ メーカーオプション

■ ドアロック（→ P. 89）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続２回で全ドア解錠	○	―	―	○
車速感応オートドアロック	する	しない	○	―	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	しない	する	○	―	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	する	しない	○	―	○	○
運転席を開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	しない	する	○	―	○	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→ P. 105）、ワイヤレスドアロック（→ P. 86）共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
作動の合図 （ブザー音量調整）	レベル 7	OFF	○	―	○	○
		レベル 1 ～ 6				
作動の合図（非常点滅灯）	する	しない	○	―	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	―	○
		120 秒				
半ドア警告ブザー	する	しない	―	―	―	○
ワイヤレスリモコンスイッチでのバックドアガラスのロック解除操作	1 回押し 続ける（短）	1 回押し	―	―	―	○
		2 回押し				
		1 回押し 続ける（長）				
		非作動				

■ スマートエントリー&スタートシステム（→ P. 105）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
スマートエントリー& スタートシステム	する	しない	○	―	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ 解錠	○	―	○	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	―	―	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 86）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ワイヤレス機能	する	しない	―	―	―	○
解錠時の操作	1 回で 全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	―	○	○

■ メモリーコール機能★（→ P. 126）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	―	―	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 175）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ライトセンサーの感度調整	標準	レベル －２～＋２	○	―	○	○
LED デイライトの作動★	する	しない	―	―	―	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	―	○

■ イルミネーション（→ P. 243）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
点灯制御	する	しない	―	―	―	○
消灯までの時間	15 秒	OFF 7.5 秒 30 秒	○	―	○	○
接近時の作動	する	しない	―	―	―	○
解錠時の作動	する	しない	―	―	―	○
“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動	する	しない	―	―	―	○
センターコンソールイルミネーションの作動★	する	しない	―	―	―	○
足元照明の作動★	する	しない	―	―	―	○
ラウンジ照明調光制御★	する	しない	―	―	―	○

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ サイドステップ照明★（→ P. 243）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
点灯制御	する	しない	—	—	—	○
消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○	○
		7.5 秒				
		30 秒				
接近時の作動	する	しない	—	—	—	○
解錠時の作動	する	しない	—	—	—	○
ドアロックスイッチで解錠したときの作動	する	しない	—	—	—	○
ドアを開けたときの作動	する	しない	—	—	—	○

■ パワーウインドウ（→ P. 141）、ムーンルーフ★※（→ P. 144）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアキー連動開閉機能（閉）	しない	する	—	—	—	○
ドアキー連動開閉機能（開）	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（閉）	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（開）	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	する	しない	—	—	—	○

※：パワーウインドウの設定を変更すると、ムーンルーフ★の設定も連動して変更されます。

■ メーター照明（→ P. 72）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサー感度調節	レベル 0	レベル －2～＋2	○	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターの照度をもとにもどすためのセンサー感度調節	レベル 0	レベル －2～＋2	○	—	—	○

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ オートエアコン（→ P. 236）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○

■ オートアラーム（→ P. 62）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	する	しない	—	—	—	○

■ クリアランスソナー★（→ P. 208）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
フロントセンサーの検知可能距離	約 100cm	約 60cm	○	—	—	○
バックセンサーの検知可能距離	約 150cm	約 65cm	○	—	—	○
ブザー音量	レベル 5	レベル 1 〜 5	○	—	—	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	—	○

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 73）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
エコドライブインジケーターランプの作動	する	しない	—	○	○	—
ルート案内表示★	する	しない	—	○	○	○
車両表示★	背面タイヤ表示なし	背面タイヤ表示あり	—	○	○	○

知識

■ メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了するとき

次の場合は、メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

● （→ P. 73）を押したとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●車が走りはじめたとき（車速約 8km/h 以上）

●警告メッセージが表示されたとき

警告

■設定変更の操作を行うときは

換気のよい場所に停車して行ってください。エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

設定変更の操作は、エンジンをかけた状態で行ってください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
バックガイドモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
マルチテレインモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「オフロード走行取扱書」

★：仕様により異なる装備やオプション装備

さくいん

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ＆ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETC システム
- ・ハンズフリー
- ・G-BOOK

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 87）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 88）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？　（→ P. 290）
- エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 163）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 108）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 92）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？　（→ P. 162）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 162）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 106）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 165）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
  （→ P. 355）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 357）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 354）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 165）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 141）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 164）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 388）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 323、327 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 337）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 365）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 62
ドアを開閉したとき	シフトポジションが P 以外になっている	P. 334
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 62
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 290
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 107
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 334

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアガラスを解錠する、またはエンジンスイッチを ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 328
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 328
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 325
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 171
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 155
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 201
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 223

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

アルファベット順さくいん

五十音順さくいん

あ

い

う

え

お

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

か

き

く

け

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

こ

さ

し

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

す

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

つ

て

と

な

に

ぬ

ね

は

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ひ

ふ

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

へ

ほ

ま

み

む

め

ゆ

ら

り

る

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

れ

ろ

わ

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口
P. 282	P. 189

IIEWPD001

ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 282	P. 371

項目	内容
燃料の容量（参考値）	87L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 368
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ：(kg/cm²)

タイヤサイズ	前輪	後輪
265/65R17 112S	220(2.2)	220(2.2)
265/60R18 110H	220(2.2)	220(2.2)

エンジンオイル容量（参考値）

エンジン	2TR-FE	1GR-FE
オイルのみ交換時	5.0L	5.7L
オイルとフィルター交換時	5.7L	6.1L

エンジンオイルの種類

トヨタキヤッスルモーターオイル
- SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20)
- SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20)
- SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)
- SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

モ-36

M　60F66
01999ー60F66
II−2013年10月21日
2013年８月26日初版
2013年10月28日２版
ランドクルーザープラド